

**平成30年度全国学力・学習状況調査
結果分析の概要**

**平成30年12月
寒川町教育委員会**

目 次

はじめに

変わらずに大事なこと	…	1
～寒川町教育委員会の姿勢		

1. 力をつけていくために

信頼関係があるということ	…	4
家庭での支えがあるということ	…	9

2. よりよい授業のために

伝えたい気持ちを育む	…	14
「読む」機会・「書く」機会を確保する	…	19

3. これまでも、これからも

家庭で育まれる力	…	27
学校で育まれる力	…	31

まとめ … 『町全体で取り組んでいきませんか』

資料

— 平成30年度全国学力・学習状況調査 調査の概要
— 平成30年度全国学力・学習状況調査 調査結果(グラフ)

変わらずに大事なこと ～寒川町教育委員会の姿勢

全国学力・学習状況調査は平成 25 年度から、全国全ての小学校、中学校を対象に調査が行われてきました。平成 30 年度の調査の目的は次の通りです。

【調査の目的】¹

- 学力や学習状況を把握して、分析すること
- 教育施策の成果と課題を検証して、その改善を図ること
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てること*
- 教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること*

平成 30 年度調査では、前年度までの*部 3 番目と 4 番目が入れ替わったものの、これまでと調査を行う目的はずっと変わっていません。これとともに、変わらないこととしては、

【調査結果の取り扱いに関する配慮事項】²

- 本調査の目的や、調査結果が学力の特定の一部であること
- 序列化につながらない取組が必要であること

この部分について、平成 30 年度の全国学力・学習状況調査に関する実施要領でも、

【調査結果の取り扱いに関する配慮事項】³

- 調査により測定できるのは学力の特定の一部であること
- 学校における教育活動の一側面であること
- 序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮すること

この調査で分かることは学力の特定の一部であること、この調査結果を受けて、序列化や過度の競争が生まれないよう配慮することが求められています。

○ 「全国学力・学習状況調査に関する実施要領」については、以後「実施要領」とする。

1【調査の目的】 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。（平成30年度 実施要領より）

2【調査結果の取扱いに関する配慮事項】 調査結果の公表にあたっては、本調査の目的や、調査結果が学力の特定の一部であることなどを明示するとともに、序列化につながらない取組が必要。（平成 25 年度 実施要領より）

寒川町教育委員会では平成 30 年度についてもこのことをしっかりと受け止め、全国学力・学習状況調査を次のように取り扱い、寒川町の教育のより一層の発展を目指していきます。

【寒川町教育委員会として】^{3・4}

- 序列化や過度な競争が生じないよう配慮します。
(調査結果については、単に平均正答数や平均正答率などの数値のみの公表は行いません。)
- 学力の特定的一部分、教育活動の一側面であることに十分に留意します。
(他の市町村や過去の結果との数値のみの比較に終わらず、平均正答数や平均正答率の現状についてしっかりと受け止めていきます。)
- 調査結果について分析を行い、その分析結果を併せて公表します。
- 調査結果の分析を踏まえた今後の改善方策を示していきます。
- 調査結果の分析内容や改善方法については、寒川町ホームページに掲載するだけでなく、家庭版学校教育だより等で家庭への発信をし、家庭とともに学習について考えていきます。

また、次のことを踏まえて分析をしていきます。

【分析をする上での留意点】

- 学校での教育実践と調査結果との関わりについて検証していきます。
- 「これまでに取り組んで『強み』になったこと」を成果としています。
- 「これまでも取り組んできて、これからも取り組んでいきたいこと・より重点的に今後取り組みたいこと」を課題とします。
- 寒川町の児童・生徒やその保護者の取り組み、また、教職員の教育実践の方向性について、新学習指導要領やこれから求められる力と関連付けていきます。

3【調査結果の取扱いに関する配慮事項】「調査結果については、調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要であることに留意し、適切に取り扱うものとする。調査結果の公表に関しては、教育委員会や学校が、保護者や地域住民に対して説明責任を果たすことが重要である一方、調査により測定できるのは学力の特定的一部分であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要である。」「調査結果の公表を行う教育委員会又は学校においては、単に平均正答数や平均正答率などの数値のみの公表は行わず、調査結果について分析を行い、その分析結果を併せて公表すること。さらに、調査結果の分析を踏まえた今後の改善方策も速やかに示すこと。」(平成 30 年度実施要領より)

4【調査結果の活用】(ア) 各教育委員会、学校等においては、多面的な分析を行い、自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握・検証し、保護者や地域住民の理解と協力のもとに適切に連携を図りながら、教育及び教育施策の改善に取り組むこと。(ウ) 各教育委員会においては、調査結果を踏まえ、それぞれの役割と責任に応じて、学校における取組等に対して必要な支援等を行うなど、域内の教育及び教育施策の改善に向けた取組を進めること。(平成 30 年度実施要領より)

これから先の世の中で必要になるのは、「自ら切り拓く力」や「生きる力」⁵などとも呼ばれますが、分かりやすく言うと『自分で作っていく力』です。学校には、自分でやってみて、感じて、考えて、そしてみんなと共有していくという「自分で作っていく楽しさ」があります。自分が動き、自分の周りの世界を動かすことで、なりたい自分になる。人はだれもが「自己実現」を目指して生きていきます。

「自分らしく生きる」という言葉をよく耳にしますが、誰もがそう在りたい、自分の子どもに対してはそう願わずにはいられないことは、私たちが生きる社会では大前提のことでしょう。学校でも目指しているところは同じです。

このような誰もが普遍的に持っている見方や考え方で、保護者が、地域が、学校が児童・生徒を育てていくことが大事です。良いところを認め、課題に向き合い、その時だけでなく学び続けていくことができる取り組みと一緒に考えていくことが、これからの社会を作っていく、一人ひとりを育てることになります。

5【生きる力とは】平成8年7月の中央教育審議会の答申において、基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力などであると指摘されている。平成20年に行われた前回の改訂においては、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域で重要性を増す、いわゆる知識基盤社会において、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育むことがますます重要になっているという認識が示され、知・徳・体のバランスのとれた育成（教育基本法第2条第1号）や、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育み、主体的に学習に取り組む態度を養うこと（学校教育法第30条第2項）など、教育基本法や学校教育法の規定に基づき、児童に「生きる力」を育むことが重視されたところである。平成28年12月の中央教育審議会答申を受け、今回の改訂においては、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて加速度的に進展するようになってきていることを踏まえ、複雑で予測困難な時代の中でも、児童・生徒一人一人が、社会の変化に受け身で対応するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を発揮し多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓ひらき、未来の創り手となることができるよう、教育を通してそのために必要な力を育んでいくことを重視している。（新学習指導要領解説総則編より）



1. 力をつけていくために

信頼関係があるということ

世の中にはスポーツ選手の力を伸ばす素晴らしい理論やメソッド（方法）があります。選手はそのメソッドを学び、それを実践することで力をつけていきます。

また、そのメソッドを学ぶ上でコーチ（指導者）の存在は重要です。選手はそのメソッドの指導をコーチから受け、その実践をコーチに客観的に評価してもらうことで、次の取り組みにつなげていきます。

このことはあまりにも当たり前のことですが、ここで考えたいことは、力を伸ばすのに何が一番必要なのかということです。選手の本来持っている力が大切なのでしょうか。それともよいメソッドさえあればよいのでしょうか。また別な考え方として、コーチの教え方が良いことが大事なのでしょうか。もちろんこの3つ全てがそろっていれば良いと考えられますが、この3つがあっても力をつけていくことが難しい場合があります。それは、選手とコーチの間に信頼関係がない場合です。

コーチへの信頼がなければ、コーチの言いたいことは伝わりません。それと同時にいくら素晴らしいメソッドであったとしても、そのコーチから聞くことで価値を見出せなくなります。このことから力を伸ばすのに一番必要なことという先ほどの問いの答えは、コーチとの信頼関係だということになります。ここでいう選手とコーチという言葉は、人と人に置きかえてみても、やはり何をするにしても人と人との信頼関係が大事になります。そして何より相手とコミュニケーションをとる力もなくてはならないのです。

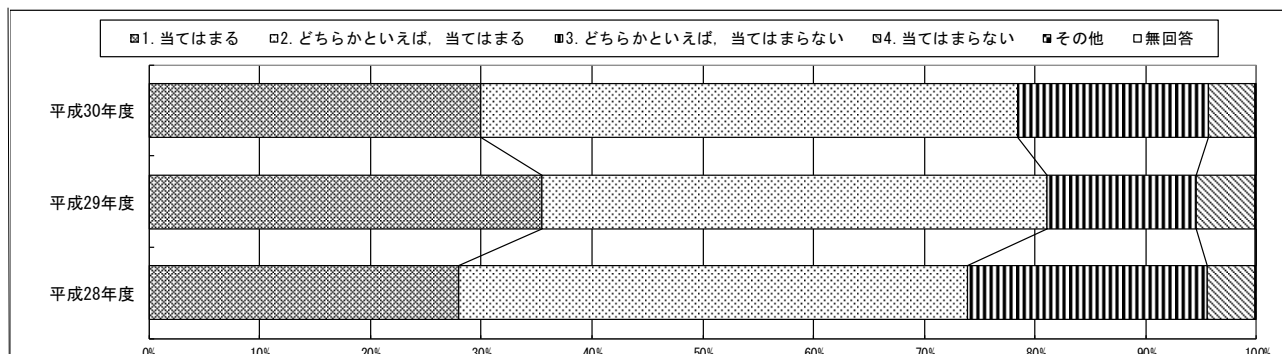
今回の調査では、児童・生徒質問紙でこれらについての質問がありました。⁶

6 生徒指導については「中学校新学習指導要領解説総則編第4節 1(1)(2)」に次のように記載されている。

「学校は、生徒にとって伸び伸びと過ごせる楽しい場でなければならない。生徒一人一人は興味や関心などが異なることを前提に、生徒が自分の特徴に気づき、よい所を伸ばし、自己肯定感をもちながら、日々の学校生活を送ることができるようにすることが重要である。」「学級経営を行う上で最も重要なことは学級の生徒一人一人の実態を把握すること、すなわち確かな生徒理解である。学級担任の教師の、日ごろのきめ細かい観察を基本に、面接など適切な方法を用いて、一人一人の生徒を客観的かつ総合的に認識することが生徒理解の第一歩である。日ごろから、生徒の気持ちを理解しようとする学級担任の教師の姿勢は、生徒との信頼関係を築く上で極めて重要であり、愛情をもって接していくことが大切である。」「生徒指導を進めていく上で、その基盤となるのは生徒一人一人についての生徒理解の深化を図ることである。一人一人の生徒はそれぞれ違った能力・適性、興味・関心等をもっている。また、生徒の生育環境も将来の夢や進路希望等も異なる。それ故、生徒理解においては、生徒を多面的・総合的に理解していくことが重要であり、学級担任の教師の日ごろの人間的な触れ合いに基づくきめ細かい観察や面接などに加えて、学年の教師、教科担任、部活動等の顧問教師、養護教諭などによるものを含めて、広い視野から生徒理解を行うことが大切である。また、思春期にあつて生活環境の急激な変化を受けている生徒一人一人の不安や悩みに目を向け、生徒の内面に対する共感的理解をもって生徒理解を深めることが大切である。生徒理解の深化とともに、教師と生徒との信頼関係を築くことも生徒指導を進める基盤である。教師と生徒の信頼関係は、日ごろの人間的な触れ合いと生徒と共に歩む教師の姿勢、授業等における生徒の充実感・成就感を生み出す指導、生徒の特性や状況に応じた的確な指導と不正や反社会的行動に対する毅然とした教師の態度などを通じて形成されていくものである。（次頁に続く）

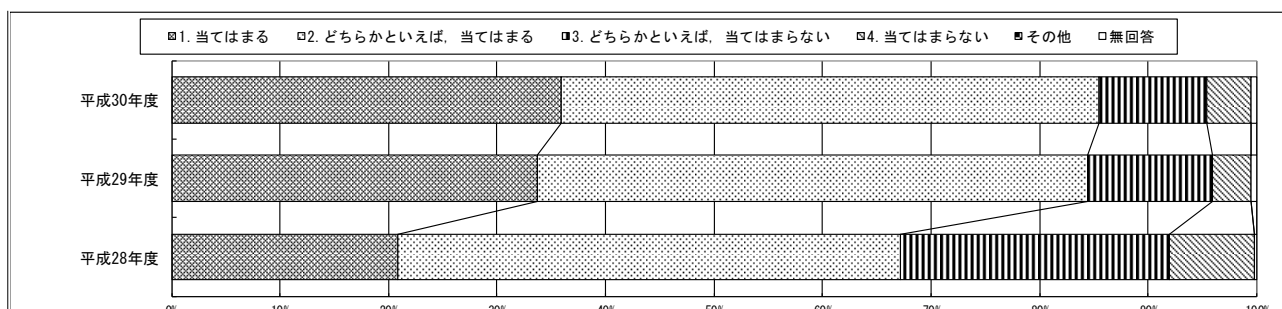
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項									
(2)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成30年度	29.9	48.4	17.3	4.1			78.3		0.2	0.0
平成29年度	35.5	45.6	13.4	5.3			81.1		0.2	0.0
平成28年度	27.9	45.9	21.6	4.3			73.8		0.2	0.0



【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項									
(2)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる (1+2)	その他	無回答
平成30年度	35.9	49.6	9.9	4.1				85.5	0.0	0.5
平成29年度	33.7	50.7	11.5	3.6				84.4	0.0	0.5
平成28年度	20.8	46.3	24.8	7.8				67.1	0.0	0.2



先述した通り、先生と児童・生徒との信頼関係がなければ、いくら教え方がよくても学習が身についていきません。児童・生徒質問紙の(2)は、「よいところを認める」という側面から、「児童・生徒が安心して学ぶことができる」という学習環境があるかどうかを示し

その信頼関係をもとに、生徒の自己開示も高まり、教師の生徒理解も一層深まっていくのである。また、学校教育は、集団での活動や生活を基本とするものであり、学級や学校での生徒相互の人間関係の在り方は、生徒の健全な成長と深く関わっている。生徒一人一人が自己の存在感を実感しながら、共感的な人間関係を育み、自己決定の場を豊かにもち、自己実現を図っていける望ましい集団の実現は極めて重要である。すなわち、自他の個性を尊重し、互いの身になって考え、相手のよさを見付けようと努める集団、互いに協力し合い、主体的によりよい人間関係を形成していこうとする集団、言い換えれば、好ましい人間関係を基礎に豊かな集団生活が営まれる学級や学校の教育的環境を形成することは、生徒指導の充実の基盤であり、かつ生徒指導の重要な目標の一つでもある。教育機能としての生徒指導は、教育課程の特定の領域における指導ではなく、教育課程の全領域において行わなければならないものである。

(小学校についても小学校新学習指導要領解説総則編第4節1(1)(2)に同様に記載されている。)

ています。つまり、ほとんどの児童・生徒が先生との信頼関係を築いており、その上に学習活動が成り立っているということが分かります。また逆に、2割程度の児童・生徒が当てはまらないと回答していますので、今後もより個に寄り添って傾聴し、やっていることを認め、先につながるアドバイスをするなど、温かな人間関係を構築していくことが大事であると、この結果は示しています。

また、信頼関係を築く上で必要なコミュニケーション能力の育成⁷については次のような結果が出ています。

【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項									
(55)	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成30年度	24.8	46.7	23.8	4.6			71.5		0.0	0.0



7 【新学習指導要領との関連：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善】単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。特に、各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を發揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し、児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の具体的な内容については、中央教育審議会答申において、以下の三つの視点に立った授業改善を行うことが示されている。教科等の特質を踏まえ、具体的な学習内容や児童の状況等に応じて、これらの視点の具体的な内容を手掛かりに、質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることが求められている。

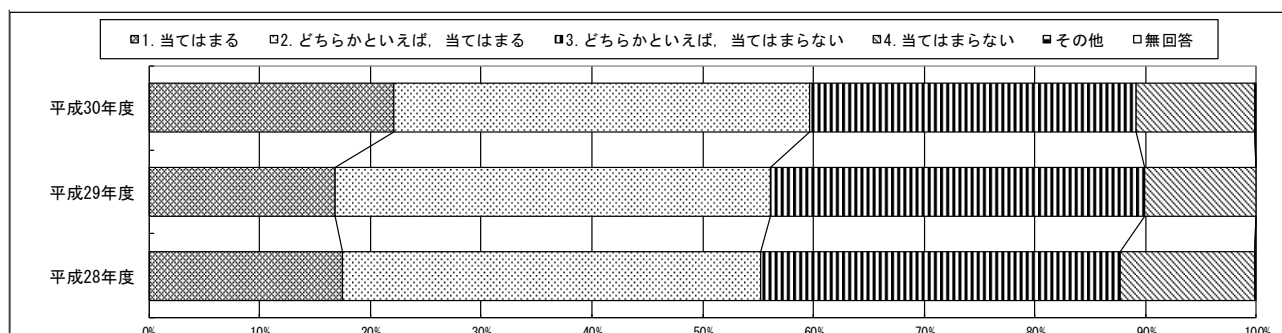
① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。

② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。

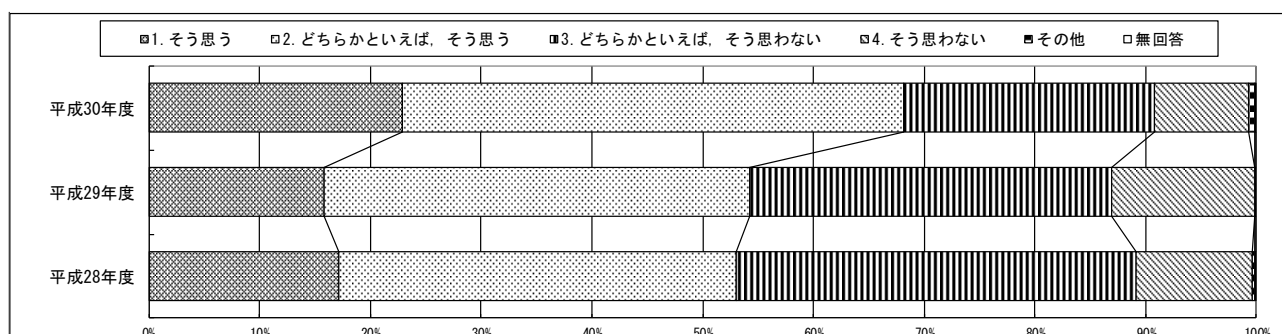
③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

（小学校新学習指導要領総則第3・1(1)より：中学校については児童を生徒とし、内容については同様の記載）

質問番号	質問事項									
(56)	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成30年度	22.1	37.5	29.4	10.7			59.6		0.0	0.2
平成29年度	16.8	39.3	33.8	10.1			56.1		0.0	0.0
平成28年度	17.5	37.7	32.5	12.1			55.2		0.0	0.2



質問番号	質問事項									
(57)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	思う (1+2)		その他	無回答
平成30年度	22.9	45.3	22.6	8.5			68.2		0.5	0.2
平成29年度	15.8	38.4	32.6	12.9			54.2		0.0	0.2
平成28年度	17.1	35.9	36.1	10.4			53.0		0.2	0.2



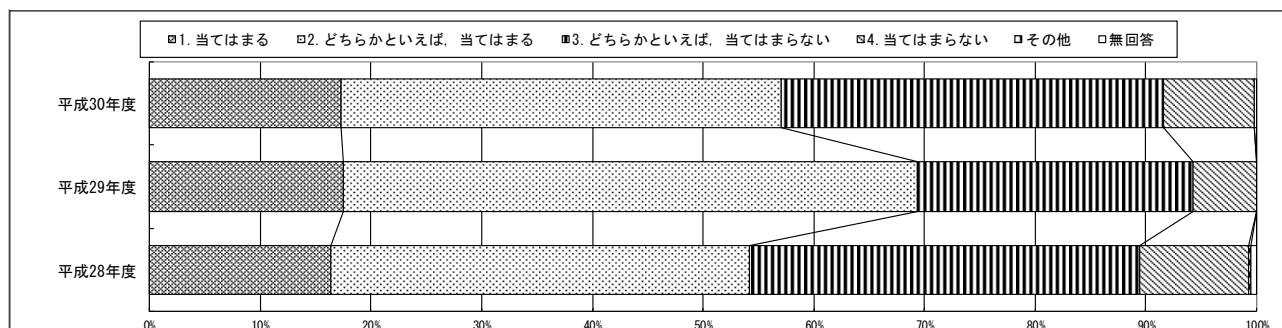
【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項									
(52)	1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる (1+2)	その他	無回答
平成30年度	26.7	45.3	22.7	5.1				72.0	0.0	0.2

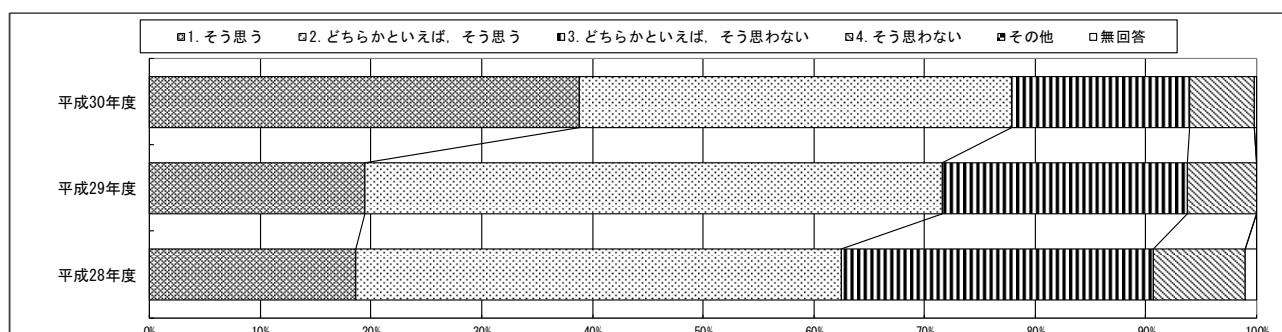


これらについては、これからの授業で求められる「主体的・対話的で深い学び」の実現についての調査となります。特にコミュニケーションについては、小学校児童質問紙（57）と中学校生徒質問紙（54）の結果に表れています。町内小学校、中学校とも新学習指導要領を意識した授業改善が行われており、授業での取り組みが児童・生徒が意識して行われるようになってきていることが、ここから分かります。

質問番号	質問事項									
(53)	1. 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる (1+2)	その他	無回答
平成30年度	17.3	39.8	34.5	8.2				57.1	0.0	0.2
平成29年度	17.5	51.9	24.9	5.7				69.4	0.0	0.0
平成28年度	16.4	37.7	35.3	9.8				54.1	0.2	0.5



質問番号	質問事項									
(54)	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	そう思う (1+2)	その他	無回答
平成30年度	38.8	39.0	16.1	5.8				77.8	0.0	0.2
平成29年度	19.4	52.2	22.2	6.2				71.6	0.0	0.0
平成28年度	18.6	43.9	28.2	8.3				62.5	0.0	1.0



これらの結果から、寒川町立小中学校では、先生と生徒の信頼関係の上に学習が積み上げられていること、また、児童・生徒同士でコミュニケーションをとることで学習を深めている実態があることが分かりました。

これからの社会を生きていくために必要な力として一番に挙げられるのはコミュニケーション能力だと言われています。他者を批判して自分の正当性を通すことより、他者と協働してそれぞれの必要性の中からよいものを作っていく。小さな社会である学校でこのような方向性のもと教育活動を展開していくことは重要です。

先生が児童・生徒を認め、励ます。そのようにして作られる学習環境で児童・生徒同士が主体的・対話的で深い学びを実現していく。現在寒川町の教育では、それが実践できるようになっています。概ねできているからよいのではなく、できていない部分を明らかにすることとともに、そこにまで意識を配っていく。そのために一人ひとりの実情をしっかりと把握し、よくなることを願って支えていく。先述したコーチと同じく、人を育てていくということは、関わりを持って支えていくということ。この教育の基本をいつでも持っていることが大切です。

家庭の支えがあるということ

テレビドラマでは、主役を中心に話が進んでいきます。見る人はそこに自分を当てはめたり、自分との違いを感じて複雑な気持ちになったり、その考え方に共感したりして、話の中で繰り広げられる人間模様を楽しみます。その話に花を添えるのもまた人であり、時に脇役と呼ばれる人物にもまた、感情を移入して話の展開に胸を躍らせます。

テレビドラマの中ではなく、現実を生きている私たちは、誰もが自分の人生を歩いています。自分自身の考えだけで生きているのではなく、時には人の声に耳を傾けたり、また逆に自分の思いを伝えたりして、自分と他者との間に人間模様を紡ぎ出しています。テレビドラマで感じる様々な思いは、自分自身が他者を理解しようとする視点を持っている証であり、他者を理解できる力を持って他者と関わっていることを示しています。

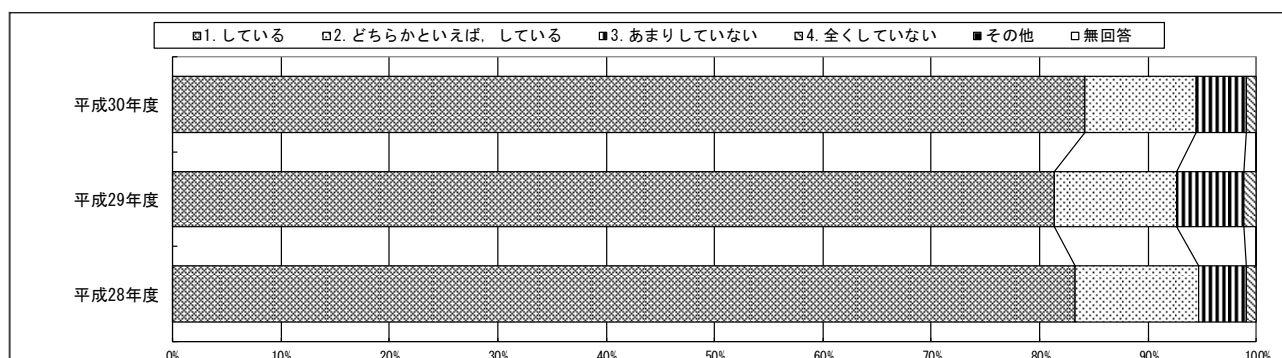
自分が生きる自分の人生の中では自分は主役であり、人との関わりの中では自分は脇役になる場面もあります。またそれと同時に社会を作っているスタッフである自分もいます。このことは、自分自身が主体として社会を生き、他者との関わりの中で社会を作っていることを意味します。

ドラマが起こっているステージは大小様々ですが、そのステージの一つである町、地域、学校を支えているのは、他ならぬ家庭です。学校教育というステージは、家庭での日々の取り組みがあって初めて成り立っています。それぞれの家庭が主体となって行っていることが大きな力となって、学校を、児童・生徒を支えています。前段の話と関連付けると、子どもに関わる大人は誰もがコーチにも、スタッフにもなれます。選手とコーチが信頼関係を安心して結ぶことができるのも、スタッフによる支えがあるからこそだと言えます。

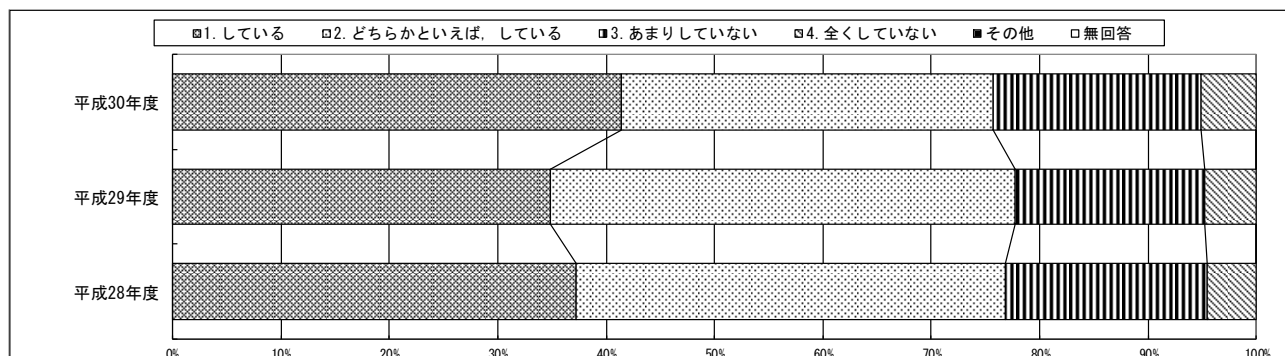
このことを示している質問紙調査は次の通りです。

【小学校児童質問紙】

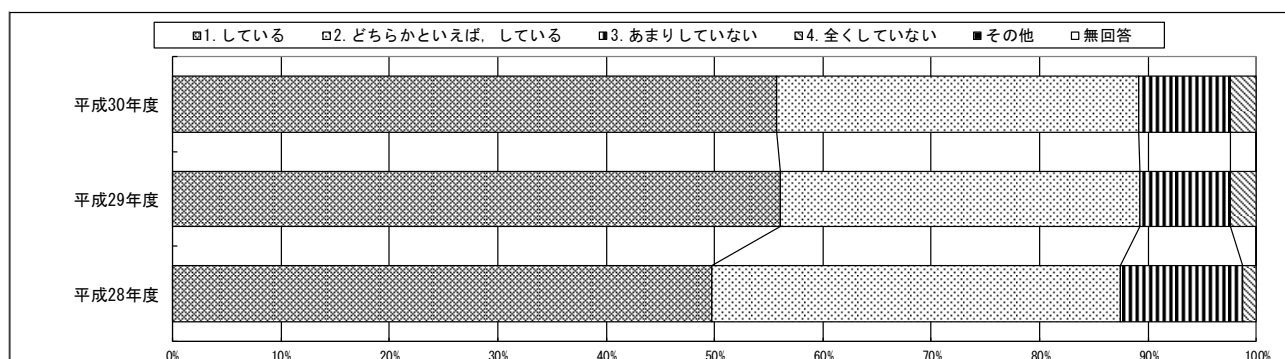
質問番号	質問事項									
(7)	朝食を毎日食べていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成30年度	84.2	10.2	4.6	1.0			94.4		0.0	0.0
平成29年度	81.3	11.3	6.2	1.2			92.6		0.0	0.0
平成28年度	83.3	11.3	4.5	0.9			94.6		0.0	0.0



質問番号	質問事項									
(8)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	している (1+2)		その他	無回答
平成30年度	41.4	34.3	19.2	5.1			75.7		0.0	0.0
平成29年度	34.8	42.9	17.5	4.8			77.7		0.0	0.0
平成28年度	37.2	39.6	18.6	4.5			76.8		0.0	0.0

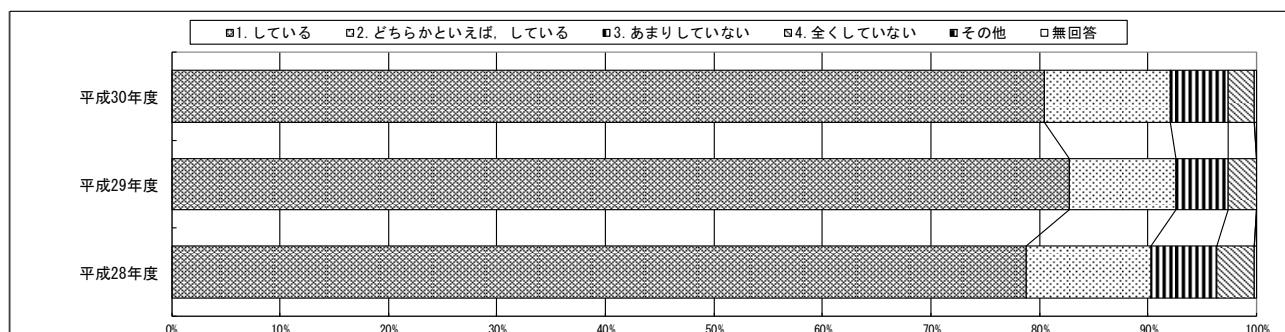


質問番号	質問事項									
(9)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	している (1+2)		その他	無回答
平成30年度	55.7	33.3	8.5	2.4			89.0		0.0	0.0
平成29年度	56.1	33.1	8.4	2.4			89.2		0.0	0.0
平成28年度	49.8	37.7	11.3	1.3			87.5		0.0	0.0

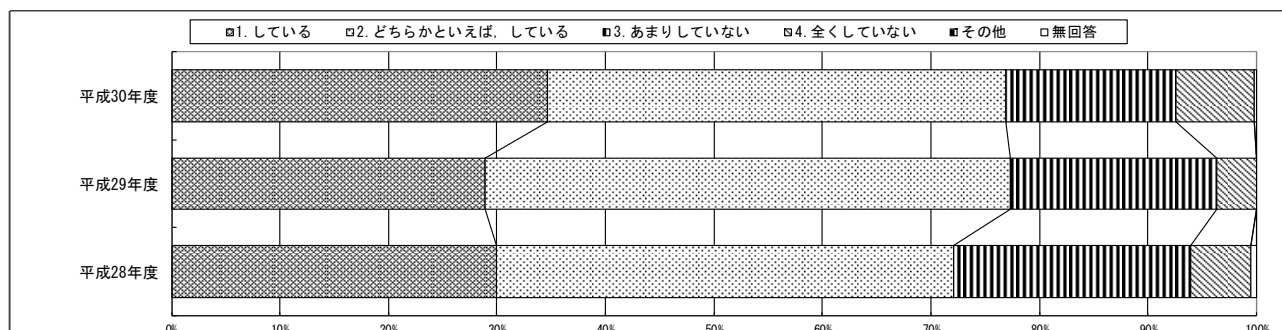


【中学校生徒質問紙】

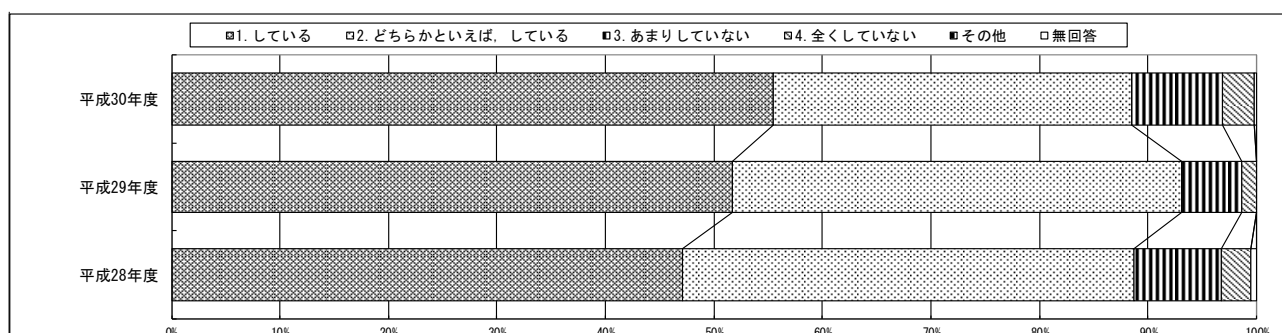
質問番号	質問事項									
(7)	朝食を毎日食べていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	している (1+2)	その他	無回答
平成30年度	80.5	11.6	5.3	2.4				92.1	0.0	0.2
平成29年度	82.8	9.8	4.8	2.6				92.6	0.0	0.0
平成28年度	78.7	11.5	6.1	3.4				90.2	0.0	0.2



質問番号	質問事項									
(8)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	している (1+2)	その他	無回答
平成30年度	34.7	42.2	15.7	7.2				76.9	0.0	0.2
平成29年度	28.9	48.3	19.1	3.6				77.2	0.0	0.0
平成28年度	29.9	42.2	21.8	5.6				72.1	0.0	0.5



質問番号	質問事項									
(9)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	している (1+2)	その他	無回答
平成30年度	55.4	33.0	8.4	2.9				88.4	0.0	0.2
平成29年度	51.7	41.4	5.5	1.4				93.1	0.0	0.0
平成28年度	47.1	41.7	8.1	2.7				88.8	0.0	0.5



これまでの調査でも基本的な生活習慣については、ずっと変わらずに家庭の支えがあることが分かります。これらのことは単に質問の内容について尋ねているのではなく、「学校に送り出す環境」があることを示しています。

確かな生活習慣を基盤として、児童・生徒が安心して学校に登校できる。前段の信頼関係については受け入れる側の条件が整っていること、そして生活習慣については送り出す側の条件が整っていることとなり、この両方がそろっていることで児童・生徒が学校で学習をする基盤ができるのです。

学習をする基盤が整い、主体的・対話的で深い学びを実現していく学習活動を展開していくことで、生きる力の育成につながっていきます。

現在の社会では、なりたい自分になること — 自己実現が大きな生きる目標となります。学校でも、職場でも周りとは協働してよりよく生きることが大事であり、他者から認められ、自分自身を認めていくことで、自己実現につながっていきます。ありのままの自分を受け入れ、自分のよいところを認められる。学習においても同じことが言えます。

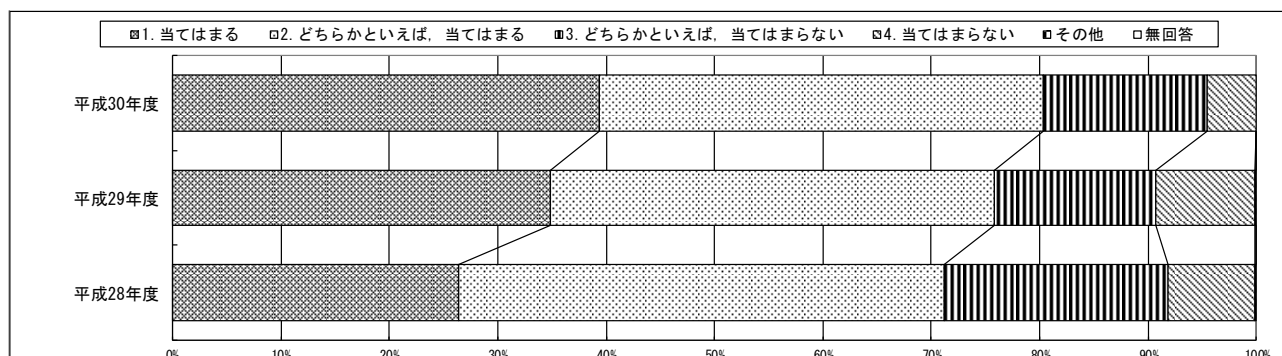
詰め込み型の学習では、「勉強はするけど、勉強は嫌い」という自分がやっていることを認められない児童・生徒を育てることにつながる可能性があります。これからの社会を担

っていく児童・生徒には、確かな生活の基盤と生きる力¹を持って、自分自身を認められる生き方ができるようになってほしい。これは今の社会を作っているスタッフ全員の願いです。

今回の調査を受けた寒川町の児童・生徒については、みんなで支えているその願いでできている環境の中で学習を行っていることが結果から分かります。

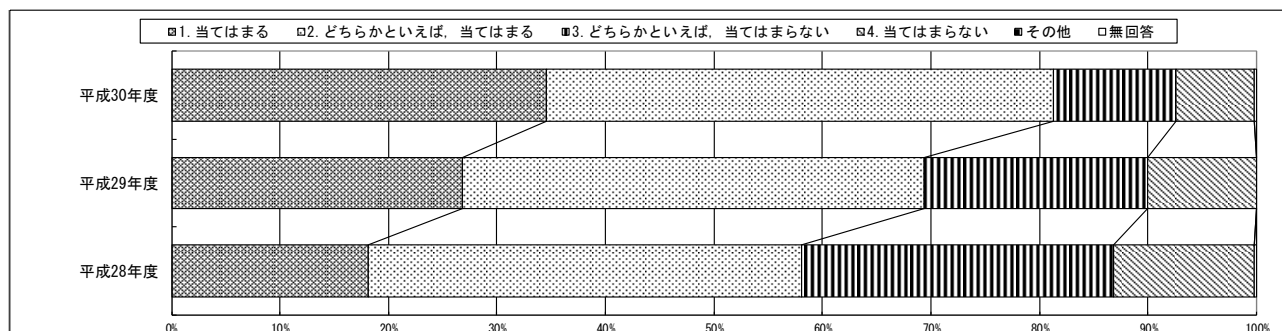
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項									
(1)	自分には、よいところがあると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成30年度	39.4	40.9	15.1	4.6			80.3		0.0	0.0
平成29年度	34.8	41.0	14.9	9.1			75.8		0.2	0.0
平成28年度	26.4	44.8	20.6	8.0			71.2		0.2	0.0



【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項									
(1)	自分には、よいところがあると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる (1+2)	その他	無回答
平成30年度	34.5	46.7	11.3	7.2				81.2	0.0	0.2
平成29年度	26.8	42.6	20.6	10.0				69.4	0.0	0.0
平成28年度	18.1	40.0	28.7	13.0				58.1	0.0	0.2



自分自身を認めるということは、自己肯定感という言葉で言い換えられます。そして、自己肯定感が育まれているということは、児童・生徒の頑張りを認めているスタッフがいることを示しています。寒川という地域、寒川町の学校、ここにある家庭が頑張りを認めているからこそ、次の学びに向かう力⁸を育みます。

家庭、学校のみならず、町全体で児童・生徒を認めることが、真に学力を育む土台を作ることになるのです。その土台が作りが進行していることを、今回の調査結果は示してい

ます。

現在の寒川の教育は、これまでに述べた現状があります。

これからの世の中を生きていく力をつけていくために必要な土台は、それぞれが行っていることを統合し、意味づけをすることで、その強度や効果が大きく変わっていきます。

児童・生徒や保護者の日常の取り組みや努力が生きる力の育成につながっています。また、課題を適切に捉えて授業改善のために研究している学校の先生、また、それに協力いただいている地域の方々についても、これまでの取り組みは新学習指導要領が示す方向と同じです。

できていることばかりではなく、できていないことにも目を向ける必要がありますが、取り組みのよさについて評価することが、児童・生徒や保護者、学校、地域の方々の自己肯定感を育むことにつながります。それが次の取り組みにつながる原動力になっていくのです。

8 【新学習指導要領との関連：資質・能力の三つの柱】○全ての教科等や諸課題に関する資質・能力に共通し、それらを高めていくために重要となる要素については、海外の事例や、カリキュラムに関する先行研究等に関する分析によれば、知識に関するもの、スキルに関するもの、情意（人間性など）に関するものの三つに大きく分類されている。前述の三要素は、学校教育法第30条第2項が定める学校教育において重視すべき三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」）とも大きく共通している。

①「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」

②「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」

③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」

（次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ 5(2)より抜粋）

A decorative background consisting of a cluster of hexagons. Some hexagons are solid yellow, while others are white with a thin yellow outline. They are arranged in a honeycomb-like pattern, with some hexagons overlapping others.

2. よりよい授業のために

伝えたい気持ちを育む

日本では年間に 1000 本を超える映画が公開されています。見たい映画があるとき、誰と見に行きますか。親しい人、気が合う人等、複数で見に行くという人もいれば、一人で見るという人もいます。では、両者それぞれのよさは何でしょう。映画館でシートに座ればおしゃべりはできませんので、見ているときは共通的に独りです。つまりそれぞれの特徴を考えると、映画を見終わった後がポイントとなります。

複数で映画鑑賞をした後は必ずその映画を話題にして話します。場面、人物、話の流れ、台詞などの、自分が疑問に思ったところ、心が動いたところ、共感や納得したところなどについて話したくなります。つまり、「気づいたこと（見つけたこと・気になったこと）」があればあるほど話さずにはいられなくなります。「気づき」にも 2 種類あります。それは「すっきり分かったこと」と「もやもやしていること」です。このどちらにしても話したくなります。前者であれば話の中で共感や共有を、後者であれば他の人との話を通して自分の考えを整理したり、付け加えたり、まとめたりして「なるほど」と納得にたどり着きます。

一人で映画鑑賞をした後はその映画の余韻が大切です。自分の中で映画と対話しながら、物語の世界観を確認していく作業をします。自分の感性を大事にしたい人にとっては他の人との対話より、自分との対話を楽しむ傾向があります。ここでも自分の「気づき」を自分との対話によって深めていきます。

このように「気づき」は人の心をアクティブにさせます。気持ちをアクティブにして考えることでよりよく理解する、自分や他の人と話をする事で分からないことをはっきりさせ、より自分の考えを深めることができます。⁹

学習では「言いたい、話したい、伝えたい」 — この気づきを言葉にして考えることによって、物事や課題の意味を理解し、その解決につなげていくことが大事です。また、コミュニケーションの出発点になることも含め、留意すべきポイントとなります。

平成 30 年度の全国学力・学習状況調査の結果では、「気づきを言語化し、意味を理解する」という視点を持つことで、改善していくことができる問いがあります。

9 【「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進】子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要であり、我が国の優れた教育実践に見られる普遍的な視点である「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）を推進することが求められる。今回の改訂では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める際の指導上の配慮事項を総則に記載するとともに、各教科等の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」において、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることを示した。その際、以下の6 点に留意して取り組むことが重要である。

ア 児童生徒に求められる資質・能力を育成することを目指した授業改善の取組は、既に小・中学校を中心に多くの実践が積み重ねられており、特に義務教育段階はこれまで地道に取り組まれ蓄積されてきた実践を否定し、全く異なる指導方法を導入しなければならないと捉える必要はないこと。（次頁に続く）

小学校 国語A (主として知識)		対象 設問数 (問)	寒川町		神奈川県 (公立)	全国 (公立)
分類	区分		平均正答率	全国との差		
全体		12	65 *	-5.7	70	70.7
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	1	87.9	-2.9	91.0	90.8
	書くこと	1	71.9	-1.9	74.3	73.8
	読むこと	2	69.7	-4.3	74.5	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	8	59.7	-7.3	66.1	67.0

A 問題	気付きを言語化し、意味を理解する 「読むこと」設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(正 答 率 (%))	全 国 の 正 差 答	無 解 答 率
4	『くらやみの物語』を読んで心に残ったことを一文を取り上げて説明する際に、その一文が心に残った理由として適切なものを選択する	登場人物の心情について、情景描写を基に捉える	67.6	-6.4	0.2
5	【春休みの出来事の一部】の中で点線部と棒線部とのつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す	文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く	28.3	-7.2	4.1

* 平成 29 年度より平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、寒川町は小数点以下を四捨五入した結果を示しています。(全国は小数第 1 位まで、都道府県及び市町村は小数点以下を四捨五入した結果の公表となっています。)

※教科に関する調査については、年度ごとに調査問題、また、調査をする児童・生徒が異なるため、その結果の経年変化を単純に比較することができないこと、当該年度の結果を真摯に受け止め今後の対応につなげるという 2 点の理由から、平均正答率については平成 30 年度分のみ公表としています。なお、本文中に出ている質問紙調査の結果については、過去 3 カ年分をまとめていますが、これについては、これまでの取り組みについての傾向性や学習状況の変化を見るためであり、教科に関する調査のまとめ方とは意味が異なります。

イ 授業の方法や技術の改善のみを意図するものではなく、児童生徒に目指す資質・能力を育むために「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点で、授業改善を進めるものであること。

ウ 各教科等において通常行われている学習活動（言語活動、観察・実験、問題解決的な学習など）の質を向上させることを主眼とするものであること。

エ 1 回 1 回の授業で全ての学びが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見通し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかを考え、実現を図っていくものであること。

オ 深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要になること。各教科等の「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等の学習と社会をつなぐものであることから、児童生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることにこそ、教師の専門性が発揮されることが求められること。

カ 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題がある場合には、その確実な習得を図ることを重視すること。

(新学習指導要領解説総則編第 1 章 1(2)③より)

中学校 国語A (主として知識)		対象 設問数 (問)	寒川町		神奈川県 (公立)	全国 (公立)
分類	区分		平均正答率	全国との差		
全体		32	73 *	-3.1	76	76.1
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	3	73.7	-1.5	76.1	75.2
	書くこと	4	73.1	-0.8	74.5	73.9
	読むこと	4	75.6	-1.1	77.3	76.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	21	71.7	-4.8	75.6	76.5

A 問題	気付きを言語化し、意味を理解する 「読むこと」設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(正 %) 答 率	率全 と国 の正 差答	無 解 答 率
5一	本文の第六段落の説明として適切なものを選択する	段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立てる	74.0	-2.3	0.0
5二	新聞紙の製造工程の一部を言い表したものとして適切なものを選択する	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える	58.1	-1.4	0.2

国語については、主として「読むこと」について、「読みとる力」を育成する上で「気づき」を大事にした学習活動を行うことが必要です。「読むこと」は学習活動全てにおいてなくてはならない力です。これについては「書くこと」とともに次項で説明します。

小学校 算数A (主として知識)		対象 設問数 (問)	寒川町		神奈川県 (公立)	全国 (公立)
分類	区分		平均正答率	全国との差		
全体		14	59 *	-4.5	64	63.5
学習指導要領 の領域等	数と計算	5	54.3	-8.0	63.1	62.3
	量と測定	4	72.5	-0.2	71.7	72.7
	図形	3	51.8	-5.1	57.1	56.9
	数量関係	5	53.8	-6.3	61.0	60.1

A 問題	気付きを言語化し、意味を理解する 「数と計算」設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(正 %) 答 率	率全 と国 の正 差答	無 解 答 率
1 (3)	針金 1m の重さを求める式を選ぶ	1に当たる大きさを求める問題では、除数が小数である場合でも除法を用いることを理解している	56.4	-8.9	2.2
2	答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を選ぶ	小数の除法の意味について理解している	25.7	-14.2	1.0
3	3桁の整数どうしの大きさを比べ、十の位に入る適切な数字を書く	十進位取り記数法で表された数の大小について理解している	70.2	-6.2	0.5

＊平成 29 年度より平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、寒川町は小数点以下を四捨五入した結果を示しています。（全国は小数第 1 位まで、都道府県及び市町村は小数点以下を四捨五入した結果の公表となっています。）

中学校 数学A（主として知識）		対象 設問数 （問）	寒川町		神奈川県（公立）	全国（公立）
分類	区分		平均正答率	全国との差		
全体		36	63 *	-3.1	66	66.1
学習指導要領 の領域	数と式	12	65.5	-5.6	70.0	71.1
	図形	12	66.9	-2.2	68.7	69.1
	関数	8	53.5	-2.0	55.9	55.5
	資料の活用	4	62.0	-1.5	62.8	63.5

A 問題	気付きを言語化し、意味を理解する 「数と式」設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			（正 答 率 ） %	率全 と国 の正 差答	無 解 答 率
1（2）	絶対値が6である数を書く	絶対値の意味を理解している	39.9	-29.1	12.5
1（3）	$2 \times (-5^2)$ を計算する	指数を含む正の数と負の数の計算ができる	55.0	-13.9	1.4
10	点（-2, 3）の位置を座標平面上に示す	座標平面上に点の位置を示すことができる	58.4	-11.5	3.1

算数・数学については「数と計算」「数と式」の領域について、これまでも課題がありましたが、記号や語句、解き方の指導にとどまらずに、問題を見たときの視点を大事にし、言語化させることで、技能の習得、数学的な見方や考え方につなげていくことができます。

小学校 理科		対象 設問数 （問）	寒川町		神奈川県（公立）	全国（公立）
分類	区分		平均正答率	全国との差		
全体		16	59 *	-1.3	60	60.3
枠組み	主として「知識」に関する問題	3	79.0	1.0	74.0	78.0
	主として「活用」に関する問題	13	54.0	-2.2	56.0	56.2

知 識	気付きを言語化し、意味を理解する 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			（正 答 率 ） %	率全 と国 の正 差答	無 解 答 率
1（3）	腕を曲げることのできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く	骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解している	81.8	2.4	3.6
2（1）	流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶ	堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している	84.7	1.1	0.0
4（1）	ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら、誤った操作に気付き、適切に操作する方法を選ぶ	ろ過の適切な操作方法を身に付けている	70.4	-0.7	0.0

＊平成 29 年度より平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、寒川町は小数点以下を四捨五入した結果を示しています。（全国は小数第 1 位まで、都道府県及び市町村は小数点以下を四捨五入した結果の公表となっています。）

中学校 理科		対象 設問数 (問)	寒川町		神奈川県（公立）	全国（公立）
分類	区分		平均正答率	全国との差		
全体		27	64 *	-2.1	66	66.1
枠組み	主として「知識」に関する問題	11	66.0	-1.9	66.0	67.9
	主として「活用」に関する問題	16	63.0	-1.9	65.0	64.9

知識	気づきを言語化し、意味を理解する 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			（正 %） 答 率	率全 と 国 の 正 差 答	無 解 答 率
2（2） 低い濃度	理科通信のアサリに興味をもち、アサリが出す砂の質量は何に関係しているのかを科学的に探究する学習場面において、水溶液の濃さや無脊椎動物に関する知識、問題解決の技能を活用できるかどうかをみる	濃度が異なる食塩水のうち、濃度の低いものを指摘できる	72.0	-4.5	0.5
2（2） 3.0%の濃度		濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる	41.9	-5.0	0.5

理科については、主として「知識」に関する問題を取り上げますが、「予想する」「実験方法を考える」「実験をする」「結果について考える」という学習活動をする上で、発見や疑問などの「気づき」が出発点となります。実験ありきの授業ではなく、児童・生徒の言葉を軸に授業を構成することで、技能についてもその意味を追求できるようになります。

新学習指導要領¹⁰の小学校の年間の授業時数¹¹は、1年生は 850 時間、4年生からは 1015 時間あります。また、中学校は 1年生から 3年生までそれぞれ 1015 時間あります。全ての授業が児童・生徒にとっては新たな出会いです。授業での学習活動の中で、その時間の目的や目標が児童・生徒にとっての「気づき」になることが、学習内容を理解することと同じ意味になります。

1年間で公開される 1000 本の映画を一人で作ることはありませんが、1000 回の授業をそれぞれの学年の先生で作っているのは紛れもない事実です。

それ以上に児童・生徒は、一人が 1000 回の授業を担当の先生やクラスメイトと共に、毎日作っていることを考えると、そこに価値があることも確かです。

また、日々それを支える家庭があることにも視野を広げると、それぞれの頑張りの結晶がこの結果であるといえます。

1000 回の授業全てでじっくりと話し合う時間をとることは、1年間で履修しなくてはならない内容がある以上難しいことですが、各校での校内研究を通して授業改善を行ってきたことで、「主体的・対話的で深い学び」の実現⁹を意識した授業が行われています。

10 【新学習指導要領について】小学校は平成 32 年度から実施、中学校は平成 33 年度から実施される。

11 【授業時数について】小学校では 1 単位時間は 45 分、中学校では 1 単位時間は 50 分とする。

授業改善の中で学習内容との出会わせ方次第で「言いたい、話したい、伝えたい」という思いが生まれます。学力向上については温かな学習環境の中で児童・生徒の言葉で作られる授業を行うことが、確かな学力をつけていくために欠かせません。

「読む」機会・「書く」機会を確保する

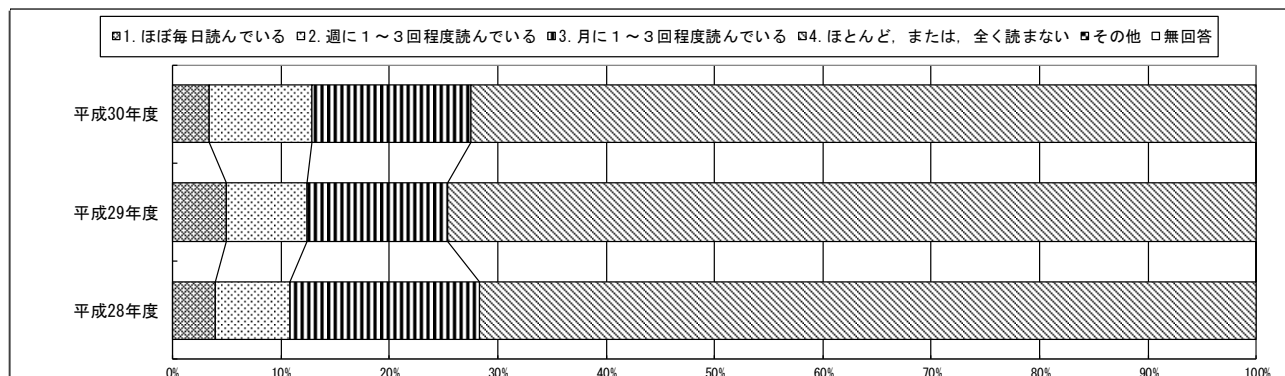
携帯電話 94.7%。スマートフォン 71.8%。これは総務省が公表している平成 29 年度版情報通信白書の情報通信端末の世帯保有率です。家から外に出て世の中の状況を見ても、人が多く集まる電車の中ではスマートフォンを操作している人を多く見かけます。

いつでも情報端末から情報を引き出せること、発信できることは大変便利なことであり、メモを手軽に写真に残すことができるなど、日常生活での行動も時代と共に変わっていることが多くあります。

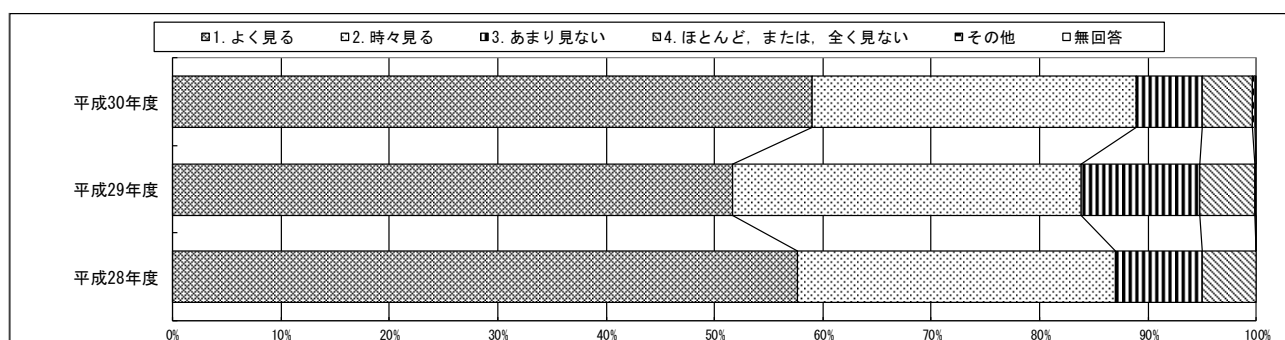
では、学習をするときに必要な「読むこと」や「書くこと」についてはどうでしょうか。「読むこと」に関しては次のような結果が出ています。

【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項									
(25)	新聞を読んでいますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	読まない		その他	無回答
平成30年度	3.4	9.5	14.6	72.5			72.5		0.0	0.0
平成29年度	5.0	7.4	12.9	74.6			74.6		0.0	0.0
平成28年度	3.9	6.9	17.5	71.6			71.6		0.0	0.0



質問番号	質問事項									
(26)	テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）									
選択肢	1	2	3	4	5	6	見る (1+2)		その他	無回答
平成30年度	58.9	29.9	6.1	4.6			88.8		0.2	0.2
平成29年度	51.6	32.1	11.0	5.0			83.7		0.2	0.0
平成28年度	57.6	29.4	8.0	5.0			87.0		0.0	0.0

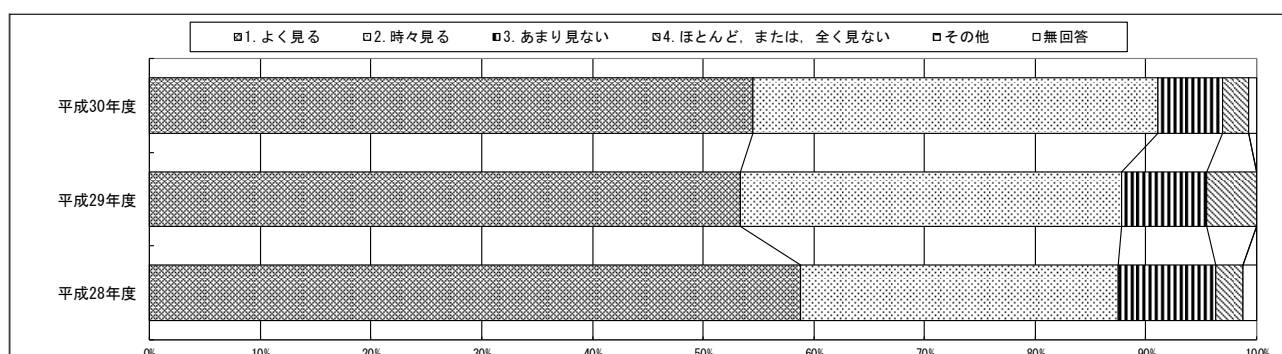


【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項									
(25)	新聞を読んでいますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	読まない	その他	無回答
平成30年度	2.7	8.2	11.1	77.3				77.3	0.0	0.7
平成29年度	4.5	8.9	14.1	72.5				72.5	0.0	0.0
平成28年度	6.1	9.1	16.7	67.6				67.6	0.2	0.2



質問番号	質問事項									
(26)	テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	見る (1+2)	その他	無回答
平成30年度	54.5	36.6	5.8	2.4				91.1	0.0	0.7
平成29年度	53.3	34.4	7.7	4.5				87.7	0.0	0.0
平成28年度	58.8	28.7	8.8	2.5				87.5	0.0	1.2



児童・生徒はいずれも関心があることについては知りたいと思うこと、それについてはニュースを見ることで情報を得ていることが分かります。「見る」ことはあっても、「読む」ことが少なく、新聞については全国でも多くの児童・生徒が読まないと回答しています。

前頁の冒頭にあるように、「読むこと」については大きく環境が変わっています。インターネットには文字はありますが、新聞や本とは構成が違います。また、SNS では1回に投稿できる字数に制限があるものもあること、正しい漢字が使われてなくても音（おん）で何となく伝えようとしていることが分かる状態が存在することなど、文字に触れる環境は変わっています。なるべく短く相手に伝えること、伝えようとしていることを読み手が補完することなど、これまでの新聞や本を「読むこと」とは異なる状況にあります。

このように児童・生徒を取り巻く環境が変化しても、これまでと変わらずに「読むこと」を行っているところもしっかりと存在しています。それが学校です。授業では教科書を読みます。それだけに、どの教科においても「読む」機会についてはしっかりと確保していくことが大事になっています。

「書くこと」についても「読むこと」と同じように、日常生活の中では機会が少ないこ

とが考えられます。情報端末で文字を扱いますが、「書く」のではなく「打つ」のであって、入力ソフトによっては漢字の変換の候補が出てくる便利な機能が備わっており、学校の授業での「書く」機会が非常に重要になっています。

これから求められる力としての「書く」については、「自分の考えを書く」ことを指しており、「書く」という側面について、平成30年度全国学力・学習状況調査の結果は次のとおりです。

小学校 国語B（主として活用）		対象 設問数 (問)	寒川町		神奈川県（公立）	全国（公立）
分類	区分		平均正答率	全国との差		
全体		8	47 *	-7.7	54	54.7
問題形式	選択式	5	61.2	-6.4	68.1	67.6
	短答式					
	記述式	3	23.1	-10.1	30.9	33.2

B 問題	「記述式」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			（正 答 率 %）	率全 と国 の正 差答	無 解 答 率
1三	これから言葉をどのように使っていきたいかについて、北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ口を書く	目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す	21.3	-12.5	11.1
3二	【伝記「湯川秀樹」の一部】を読んで、【ノートの一部】C 最も心がひかれた一文とその理由の文章の口に入る内容を書く	自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える	38.5	-13.8	20.3

A 問題	「漢字の使い方」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			（正 答 率 %）	率全 と国 の正 差答	無 解 答 率
8ア	文の中で漢字を使う（ <u>せい</u> 造）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	66.6	-6.8	4.6
8イ	文の中で漢字を使う（ <u>せつ</u> 備）		72.9	-9.3	6.5
8ウ	文の中で漢字を使う（ <u>しょう</u> 毒）		75.8	-6.4	7.3
8エ	文の中で漢字を使う（ <u>かん</u> 理）		52.8	-12.2	7.7
8オ	文の中で漢字を使う（ <u>せつ</u> 極的）		46.0	-5.4	9.4

小学校 算数B（主として活用）		対象 設問数 （問）	寒川町		神奈川県（公立）	全国（公立）
分類	区分		平均正答率	全国との差		
全体		10	45 *	-6.5	52	51.5
問題形式	短答式	2	59.1	-7.5	66.1	66.6
	記述式	5	35.1	-8.8	43.5	43.9

B 問題	「記述式」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			（正 答 率 %）	率全 と国 の正 差答	無 解 答 率
2（2）	1回の玉入れゲームの時間を3分に最も近い時間にするための玉を投げる時間を、表に整理して求める	示された考え方を解釈し、ほかの数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を判断することができる	39.0	-8.9	2.4
3（1）	メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く	メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる	13.8	-6.9	22.3

小学校 理科		対象 設問数 （問）	寒川町		神奈川県（公立）	全国（公立）
分類	区分		平均正答率	全国との差		
全体		16	59 *	-1.3	60	60.3
問題形式	選択式	13	62.8	-1.0	63.6	63.8
	短答式	1	81.8	2.4	72.5	79.4
	記述式	2	22.8	-5.2	27.6	28.0

活用	「記述式」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			（正 答 率 %）	率全 と国 の正 差答	無 解 答 率
2（3）	一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く	より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる	18.4	-1.7	0.7
4（4）	食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導きだす結論を書く	実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できる	27.2	-8.7	10.0

中学校 国語B（主として活用）		対象 設問数 （問）	寒川町		神奈川県（公立）	全国（公立）
分類	区分		平均正答率	全国との差		
全体		9	59 *	-2.2	62	61.2
問題形式	選択式	6	63.8	-2.9	67.5	66.7
	短答式					
	記述式	3	49.9	-0.4	50.9	50.3

B 問題	「記述式」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			（正 %） 答率	率全 との 正 差 答	無 解 答 率
1三	「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く	目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く	10.6	-2.7	5.5
3三	話のあらすじを学級の友達にどのように説明するかを書く	相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く	47.4	-1.8	9.6

A 問題	「漢字の書き・読み」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			（正 %） 答率	率全 との 正 差 答	無 解 答 率
8-1	漢字を書く（紙をひもで <u>タ</u> バねる）	文脈に即して漢字を正しく書く	73.0	-6.0	17.1
8-2	漢字を書く（舞台の <u>マ</u> クが上がる）		66.3	-6.6	20.0
8-3	漢字を書く（先制点を <u>ユ</u> ルす）		55.7	-15.7	28.4
8二1	漢字を読む（ <u>模</u> 型を作る）	文脈に即して漢字を正しく読む	93.7	-2.0	2.7
8二2	漢字を読む（池の水が <u>凍</u> る）		97.6	-0.2	1.7
8二3	漢字を読む（技を <u>磨</u> く）		97.6	-0.5	1.9

中学校 数学B（主として活用）		対象 設問数 （問）	寒川町		神奈川県（公立）	全国（公立）
分類	区分		平均正答率	全国との差		
全体		14	43 *	-3.9	48	46.9
問題形式	短答式	7	52.7	-3.5	56.5	56.2
	記述式	5	22.8	-5.1	29.0	27.9

B 問題	「記述式」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			（正 %） 答率	率全 との 正 差 答	無 解 答 率
1（3）	全校よりも1年生の回答用紙によるくじ引きの方が曲Fが選ばれやすいことの理由を確率を用いて説明する	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる	27.6	-8.6	24.0
4（3）	平行四辺形ABCDを正方形ABCDに変えたときの四角形EBFDがどのような四角形になるかを説明する	付加された条件の下で、新たな事柄を見いだし、説明することができる	36.3	-6.0	22.1

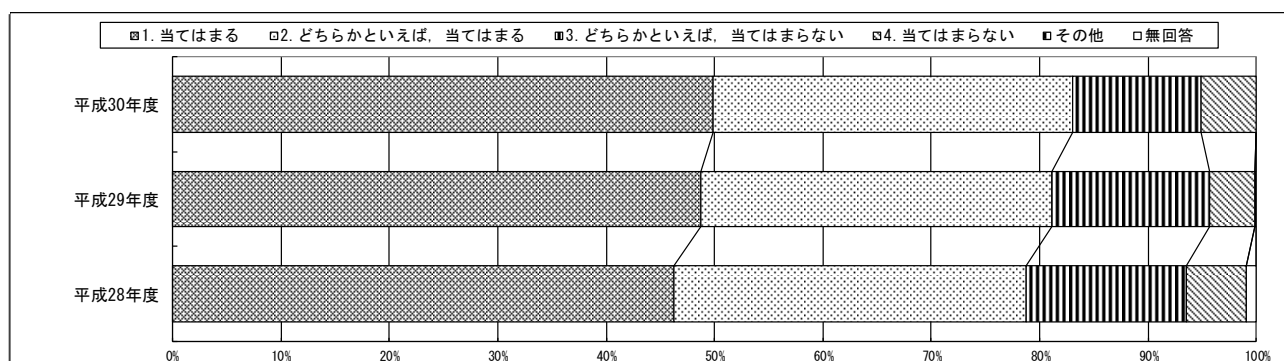
中学校 理科		対象 設問数 (問)	寒川町		神奈川県（公立）	全国（公立）
分類	区分		平均正答率	全国との差		
全体		27	64 *	-2.1	66	66.1
問題形式	選択式	17	68.8	-2.1	70.4	70.9
	短答式	4	68.2	-2.0	67.3	70.2
	記述式	6	47.9	-2.2	51.2	50.1

活用	「記述式」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(正答率) (%)	率全 国と の正 差答	無 解 答 率
4 (2)	図書便りに紹介されていたファラデーの「ロウソクの科学」を読んで、ガスバーナーを使った燃焼を科学的に探究する場面において、実験器具の操作や化学変化と原子・分子、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘できる	40.2	-3.9	11.3
4 (3)		化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明できる	39.5	-9.9	14.9

「書くこと」についてはこれまでも課題として取り上げており、平成 29 年度の全国学力・学習状況調査結果分析の概要¹²に状況の分析と対応について述べており、平成 29 年度からの学校での具体的な対応により児童・生徒の意識については次のような状況です。

【小学校児童質問紙】

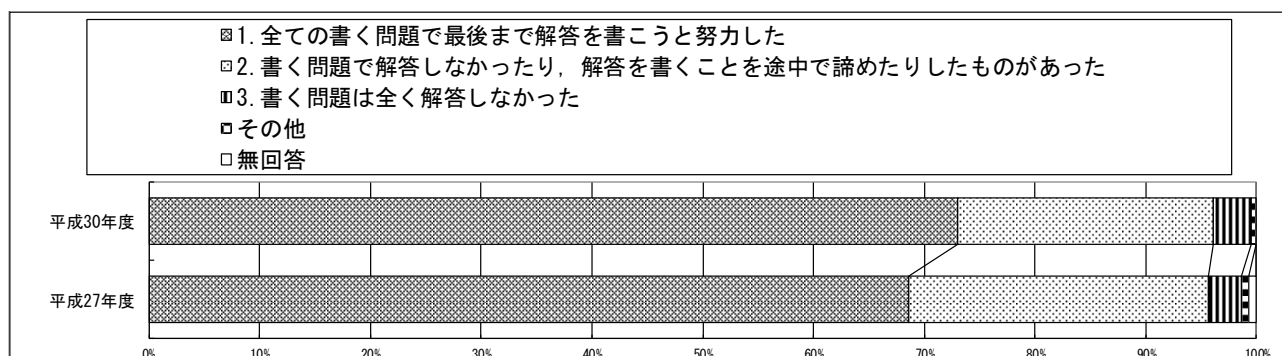
質問番号	質問事項									
(36)	算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成30年度	49.9	33.1	11.9	5.1			83.0		0.0	0.0
平成29年度	48.7	32.4	14.6	4.1			81.1		0.0	0.2
平成28年度	46.3	32.5	14.7	5.6			78.8		0.0	0.9



12 「平成 29 年度の全国学力・学習状況調査結果分析の概要」の 32 ページに記載
(右 QR コード)

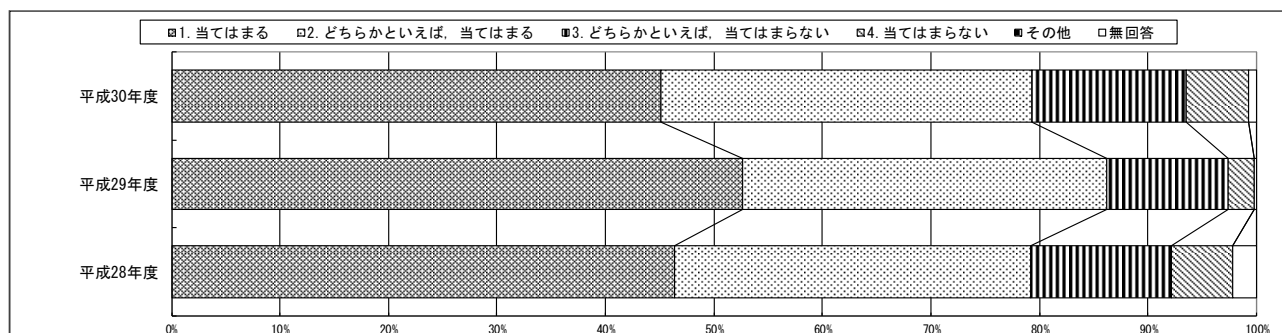


質問番号	質問事項										
(51)	今回の理科の問題について、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
平成30年度	73.0	23.1	3.4							0.5	0.0
平成27年度	68.7	27.1	2.9							0.7	0.7

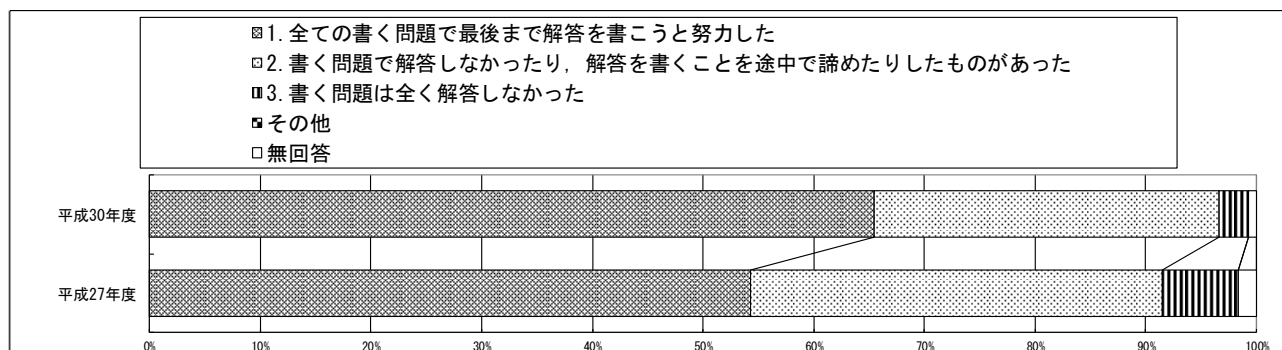


【生徒質問紙】

質問番号	質問事項										
(36)	数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成30年度	45.1	34.2	14.2	5.8				79.3		0.0	0.7
平成29年度	52.6	33.5	11.2	2.4				86.1		0.0	0.2
平成28年度	46.3	32.8	13.0	5.6				79.1		0.0	2.2



質問番号	質問事項											
(5 1)	今回の理科の問題について、解答を文章などで書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1 0	その他	無回答
平成30年度	65.5	31.1	2.7								0.0	0.7
平成27年度	54.3	37.2	6.9								0.0	1.6



平成30年度児童・生徒質問紙調査では国語に関する調査はありませんでしたが、算数・数学、理科については授業で「書く」機会が確保され、また、「書く」ことへの抵抗感につ

いては低くなっていることを読み取ることができます。

また、漢字についても、学校では小学校、中学校とも新出漢字等についてはドリル学習、プリント学習を行い、読み書きの指導については徹底してします。また、単元毎の見取りについても小テスト、定期テストで確実な定着に取り組んでいます。漢字については「書くこと」同様これまでも課題として捉えてきましたが、平成 30 年度の問題にあるように、小学校調査では「漢字を文の中で正しく使う」、中学校調査では「文脈に即して、漢字を正しく書く・読む」という使い方を問われるものになっています。漢字単体や熟語を「書く・読む」から「使う」というように変化をしており、先述しました文字を「打つ」こと、インターネット等児童・生徒を取り巻く言語環境の変化がある中、それに対応していく必要があることを漢字という側面が示しています。

情報通信端末やコンピュータなどの ICT 機器が生活の中に当たり前に存在し、その使い方についての指導が必要なことと、便利さの中で省かれることなく必要な学習についてしっかりと押さえていくことの両方を意識していくことが求められています。

次代を担う児童・生徒に求められる力¹³は、一つひとつ細かく挙げていけばこれまでより増えています。そのような状況の中でしっかりと力をつけていくには、今一度教育の原点に戻り、学校・家庭・地域が温かな学習環境を作っていくこと、その中で児童・生徒のコミュニケーションから生まれる言葉で作られる授業を行うこと、そしてこれまでの改善への取り組みによって児童・生徒や保護者、学校の先生の頑張りがあったことを評価し、町全体の肯定感を持たせることが確かな力を育んでいくことにつながります。

「相手のよいところを認めてくれますか」－これが社会には必要なことです。

13 【予測困難な時代に、一人一人が未来のつくり手となる】社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となっており、しかもそうした変化が、どのような職業や人生を選択するかにかかわらず、全ての子供たちの生き方に影響するものとなっている。しかし、このような時代だからこそ、子供たちは、変化を前向きに受け止め、私たちの社会や人生、生活を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしたり、現在では思いもつかない新しい未来の姿を構想し実現したりしていくことができる。人工知能がいかに進化しようとも、それが行っているのは与えられた目的の中での処理である。一方で人間は、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え出すことができる。多様な文脈が複雑に入り交じった環境の中でも、場面や状況を理解して自ら目的を設定し、その目的に応じて必要な情報を見だし、情報を基に深く理解して自分の考えをまとめたり、相手にふさわしい表現を工夫したり、答えのない課題に対して、多様な他者と協働しながら目的に応じた納得解を見いだしたりすることができるという強みを持っている。このために必要な力を成長の中で育んでいるのが、人間の学習である。これから子供たちが活躍する未来で一人一人に求められるのは、解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解いたり、定められた手続を効率的にこなしたりすることにとどまらず、直面する様々な変化を柔軟に受け止め、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを考え、主体的に学び続けて自ら能力を引き出し、自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したりして、新たな価値を生み出していくことであると考えられる。そのために必要な力を、子供たち一人一人が学ぶことで身に付け、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるようにすることが重要である。(次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ第 1 部 2 より抜粋)

A decorative background consisting of a cluster of hexagons. Some hexagons are solid yellow, while others are white with a thin yellow outline. They are arranged in a non-uniform, overlapping pattern.

3. これまでも、これからも

家庭で育まれる力

前段でもお伝えしてきましたが、「朝食を毎日食べる」「毎日同じくらいの時刻に寝る」「毎日同じくらいの時刻に起きる」ことなどは、一人暮らしを経験してみると、そんな当たり前のことの大変さが分かります。そのちょっとしたことを持続させることは難しいのですが、その少しのことが大きな意味を持っています。

これらの力は一般的には自制心や忍耐力、折り合いをつける力ややり抜く力など、人が生きる上で大事な力、学力を積み重ねる土台の部分のこと指しますが、これを育成するために家庭で当たり前に大事にしてきたことが人格の形成に大きく影響します。

寒川町では、平成30年3月に0歳から15歳までの家庭教育・家庭学習ハンドブック14
を作成し、子どものいる全ての家庭に配布しています。この中で家庭教育で大事にしたい
ことについてまとめています。コミュニケーション能力を含め、学力を育む上で必要なことを、発
達段階に合わせて示しています。

また、家庭教育とともに、家庭学習についても日常的に取り組んでいく必要があります。寒川町では「家庭学習の手引き」¹⁵を作成しています。この手引きについては平成 29 年度全国学力・学習状況調査結果分析から、具体的な学習内容とその学習方法についてまとめています。小学校は低・中・高学年、中学校は学年ごとに e ライブラリ¹⁶を活用した学習方法が載っています。

0歳から15歳までの
家庭教育・家庭学習ハンドブック

よく学び よく遊び よく生きる

子育て中の皆さんへ
これから親となる皆さんへ

皆さんが実現したをもって、安心してこ
れから親とかわりつたにできるよ
うに育ちました。
お子さんが生まれてから中学校卒業ま
での期間に、あなたや家庭学習の
ポイントを知ってあげたので、
ぜひ活用ください。

目次

家庭教育で大切にしたいこと

生まれる前（胎児期）	1
0歳～2歳頃（乳児期・幼児期前期）	2
3歳～6歳頃（幼児期後期）	3
小学校1年生～3年生（児童期前期）	4
小学校4年生～6年生（児童期後期）	5
中学生（青春期）	6

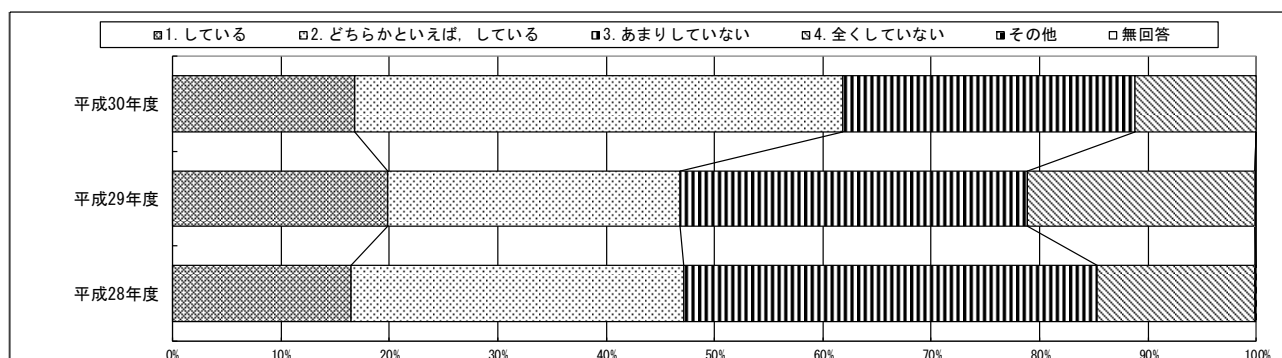
家庭学習の手引き

小学校～中学校 学びの姿と学習内容	7
小学校1～2年生	9
小学校3～4年生	11
小学校5～6年生	13
中学校1年生	15
中学校2年生	17
中学校3年生	19
だけのこ級・7組のみなさんへ	21

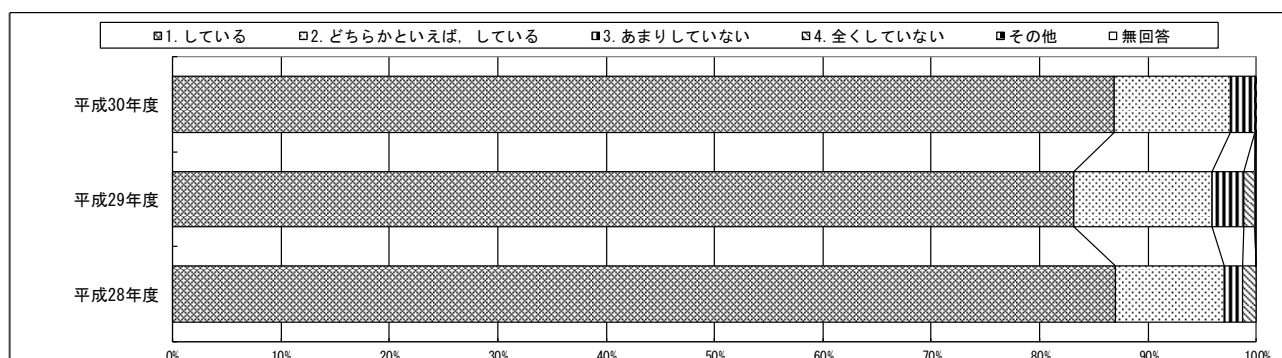
寒川町教育委員会

【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項									
(10)	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	している (1+2)		その他	無回答
平成30年度	16.8	45.0	27.0	11.2			61.8		0.0	0.0
平成29年度	19.9	26.9	32.1	20.9			46.8		0.0	0.2
平成28年度	16.5	30.7	38.1	14.5			47.2		0.2	0.0



質問番号	質問事項									
(11)	家で、学校の宿題をしていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	している (1+2)		その他	無回答
平成30年度	86.9	10.7	2.2	0.0			97.6		0.2	0.0
平成29年度	83.2	12.7	2.9	1.0			95.9		0.0	0.2
平成28年度	87.0	10.0	1.7	1.3			97.0		0.0	0.0

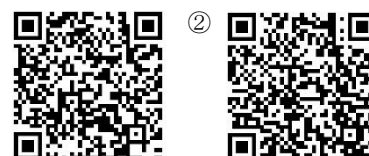


14「家庭教育ハンドブック」は寒川町のホームページよりダウンロードできます。 ①

(右 QR コード①)

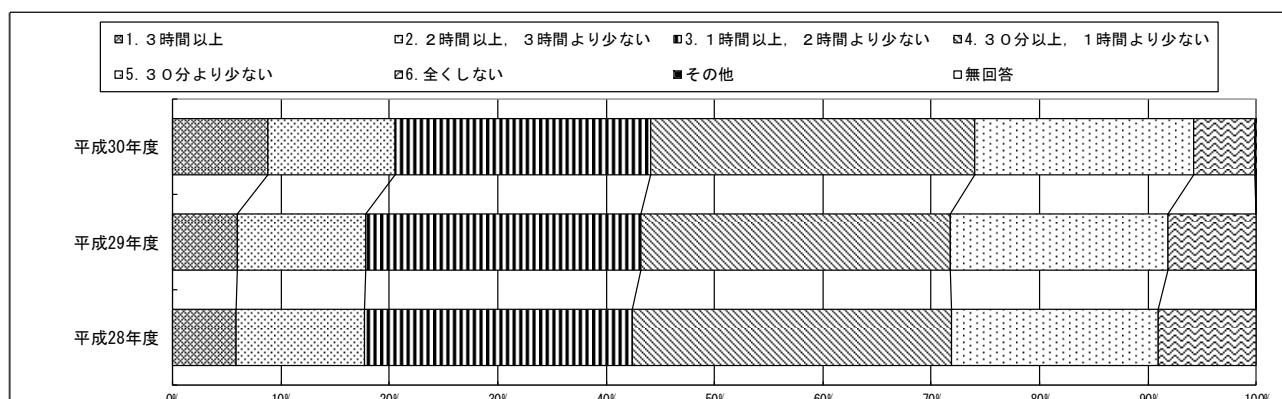
15「家庭学習の手引き」は寒川町のホームページよりダウンロードできます。

(右 QR コード②)



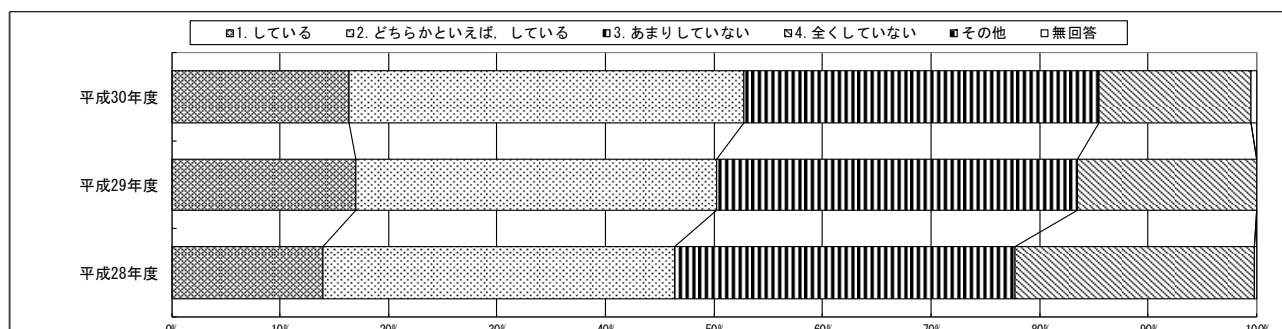
16「e ライブラリ」はインターネット型の学習コンテンツです。平成 27 年度より寒川町では全小・中学校に導入しており、町内小・中学校に通う全ての児童・生徒がパソコン、タブレット、スマートフォンにより無料で利用することができます。(インターネットの接続料については、各家庭のインターネットの環境によって異なります。)

質問番号	質問事項										
(14)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか （学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	2H以上	1H以上	その他	無回答
平成30年度	8.8	11.7	23.6	29.9	20.2	5.6		20.5	44.1	0.2	0.0
平成29年度	6.0	11.8	25.4	28.5	20.1	8.2		17.8	43.2	0.0	0.0
平成28年度	5.8	11.9	24.7	29.4	19.0	9.1		17.7	42.4	0.0	0.0

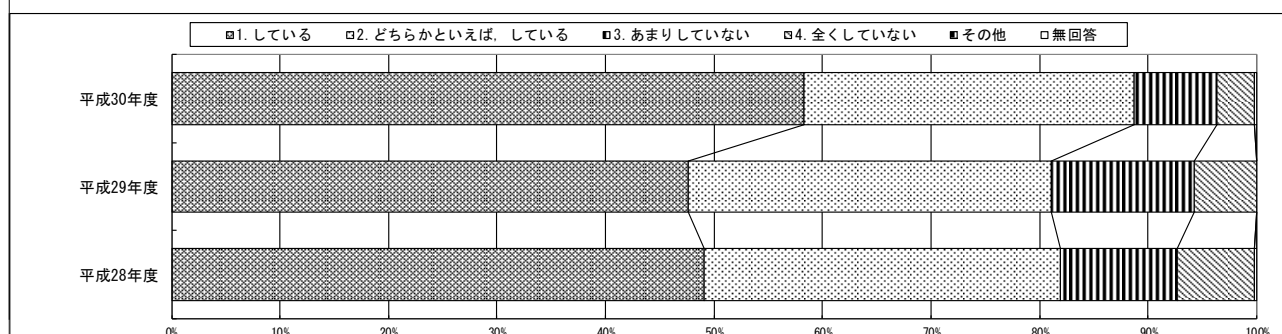


【中学校生徒質問紙】

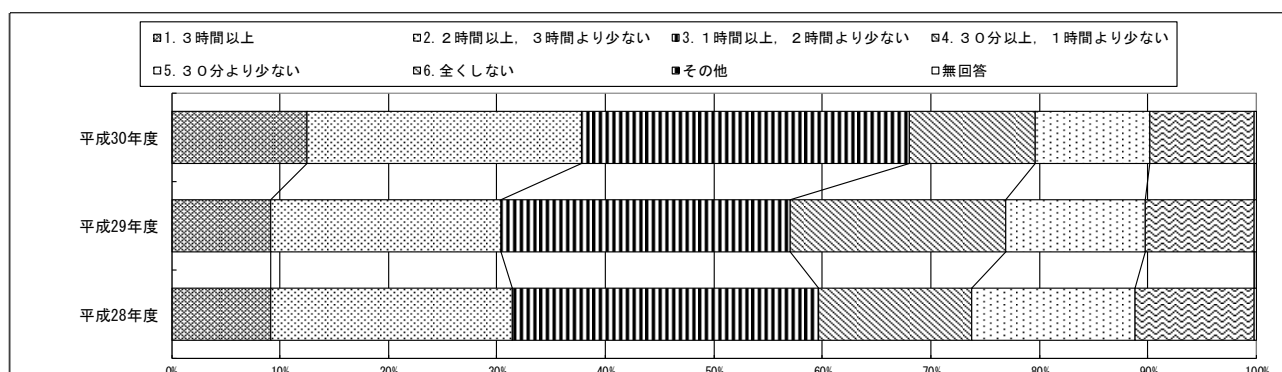
質問番号	質問事項										
(10)	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	している (1+2)		その他	無回答
平成30年度	16.4	36.4	32.8	14.0				52.8		0.0	0.5
平成29年度	17.0	33.3	33.3	16.5				50.3		0.0	0.0
平成28年度	14.0	32.4	31.4	22.1				46.4		0.0	0.2



質問番号	質問事項										
(11)	家で、学校の宿題をしていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	している (1+2)		その他	無回答
平成30年度	58.3	30.4	7.7	3.4				88.7		0.0	0.2
平成29年度	47.6	33.5	13.2	5.7				81.1		0.0	0.0
平成28年度	49.0	32.8	10.8	7.1				81.8		0.0	0.2



質問番号	質問事項											
(14)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか （学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	2H以上	1H以上		その他	無回答
平成30年度	12.5	25.3	30.1	11.6	10.6	9.6		37.8	67.9		0.0	0.2
平成29年度	9.1	21.3	26.6	19.9	12.9	10.0		30.4	57.0		0.0	0.2
平成28年度	9.1	22.3	28.2	14.2	15.0	11.0		31.4	59.6		0.0	0.2



これまでに学校から帰宅した後の家庭での過ごし方について、自分で学習の時間を設定することが課題でしたが、本年度調査では、小学校・中学校とも計画的に家庭学習をしている児童・生徒が多く、それに伴って家庭学習の時間が増えています。また、中学校では宿題にしっかり取り組む生徒が多く、小学校から習慣になっている宿題について、継続して取り組んでいることが分かります。

当たり前のことがしっかりとできる、意識しなくても大事なことを育んでいることが、今年度の調査結果から見えました。特別に何かに取り組むことは、課題解決のために必要なことですが、普段の生活の中で無理をしては継続することはできません。

それぞれの家庭の頑張りは、外からは見えないかもしれませんが、しかし、確実にあるこの日々の取り組みを地域として理解し認めることが、そのよさを伸ばす後押しになります。

このような見方、関わり方が、教育の本質として大事にしていかななくてはならないことではないでしょうか。

学校で育まれる力

生まれたときのことを覚えていますか。それまでお母さんのお腹の中でお母さんを独り占めしていましたが、生まれた途端自分で呼吸をしなくてはならず苦しかったことを。泣いていると誰かがそっとタオルを巻いてくれて、手に何も触れなくて不安だった世界が少し自分のものになったことを。

自分を取り巻く世界はどんどん広がっていきます。幼児から小学生へ、小学生から中学生へ、そしてもう少し広い社会へと人は歩を進めていきます。その時々で培った力を持って自分の力で歩いていきます。¹⁷そして広くなるときには、誰かが橋渡しをしてくれます。そしていつか、自分自身の力で世界を広げていくようになります。

初めは何も自分でできなくても、誰かの助けを得ながら進んでいくことで人は成長をしていきます。そして助けてくれた誰かがくれた文化という名のバトンを持って、今度は自分が次の世代を育てていくのです。

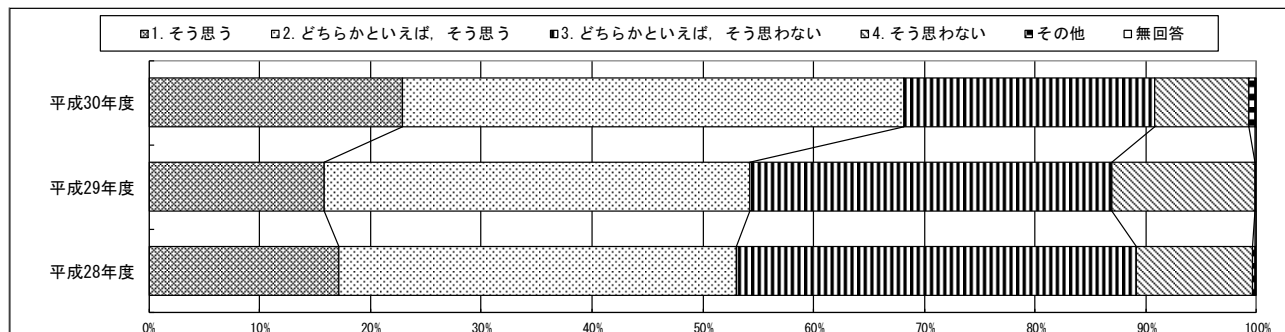
寒川町の各小・中学校では先生それぞれがよりよい授業を行っていくために授業研究を日常的に行っています。またその研究も学校内の文化として定着し、学校の教育力を培うことにつながっています。その研究を推進している中心の先生を集めて「さむかわ学びっ子育成事業研究推進委員会」を開き、各校の研究や全町的な課題について研究をしています。

17 【子供たち一人一人の豊かな学びを実現することの重要性】○学校は、今を生きる子供たちにとって、未来の社会に向けた準備段階としての場であると同時に、現実の社会との関わりの中で、毎日の生活を築き上げていく場でもある。学校そのものが、子供たちや教職員、保護者、地域の人々などから構成される一つの社会でもあり、子供たちは、こうした学校も含めた社会の中で、生まれ育った環境に関わらず、また、障害の有無に関わらず、様々な人と関わりながら学び、その学びを通じて、自分の存在が認められることや、自分の活動によって何かを変えたり、社会をよりよくしたりできることなどの実感を持つことができる。○そうした実感は、子供たちにとって、自分の活動が身近な地域や社会生活に影響を与えるという認識につながり、これを積み重ねていくことにより、主体的に学びに向かい、学んだことを人生や社会づくりに生かしていこうという意識や積極性につながっていく。○こうした学校での学びの質を高め、豊かなものとしていくことにより、子供たちは、学習内容を人生や社会の在り方と結びつけて深く理解したり、これからの時代に求められる資質・能力を身に付けたり、生涯にわたって能動的に学び続けたりすることができるようになる。全ての子供は、学ぶことを通じて、未来に向けて成長しようとする潜在的な力を持っている。教育を通じて、そうした潜在的な力を引き出し高めていくことができるよう、また、一人一人の教職員が教室や社会においてその力を発揮し活躍できるようにするために、学習指導要領等の在り方を検討していかなければならない。○子供たち一人一人は、多様な可能性を持った存在であり、多様な教育的ニーズを持っている。成熟社会において新たな価値を創造していくためには、一人一人が互いの異なる背景を尊重し、それぞれが多様な経験を重ねながら、様々な得意分野の能力を伸ばしていくことが、これまで以上に強く求められる。一方で、苦手な分野を克服しながら、社会で生きていくために必要となる力をバランス良く身に付けていけるようにすることも重要である。

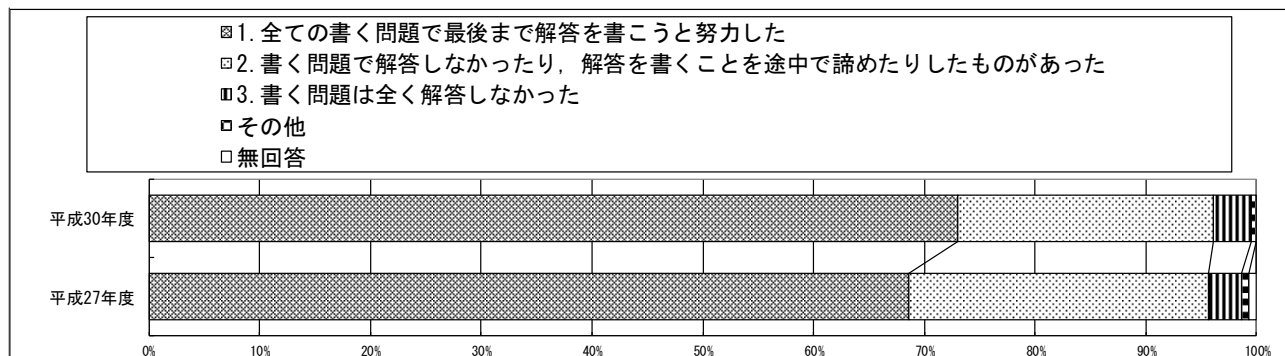
(次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ第1部3より抜粋)

【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項									
(57)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	思う (1+2)		その他	無回答
平成30年度	22.9	45.3	22.6	8.5			68.2		0.5	0.2
平成29年度	15.8	38.4	32.6	12.9			54.2		0.0	0.2
平成28年度	17.1	35.9	36.1	10.4			53.0		0.2	0.2

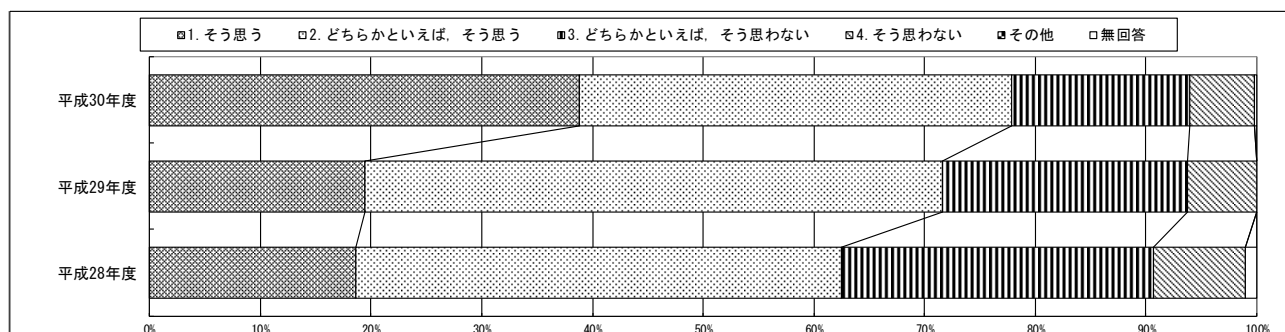


質問番号	質問事項										
(51)	今回の理科の問題について、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
平成30年度	73.0	23.1	3.4							0.5	0.0
平成27年度	68.7	27.1	2.9							0.7	0.7

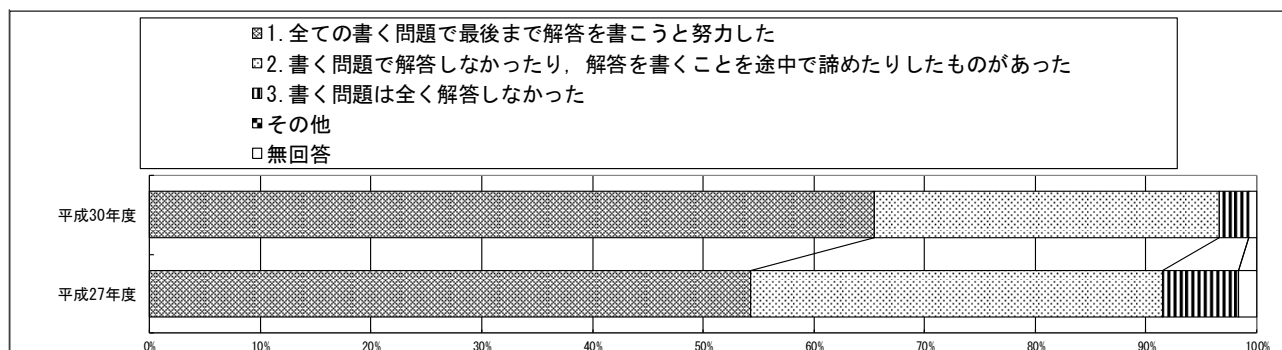


【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項									
(54)	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	そう思う (1+2)	その他	無回答
平成30年度	38.8	39.0	16.1	5.8				77.8	0.0	0.2
平成29年度	19.4	52.2	22.2	6.2				71.6	0.0	0.0
平成28年度	18.6	43.9	28.2	8.3				62.5	0.0	1.0



質問番号	質問事項											
(51)	今回の理科の問題について、解答を文章などで書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
平成30年度	65.5	31.1	2.7								0.0	0.7
平成27年度	54.3	37.2	6.9								0.0	1.6



その協議の中で中学校の先生から「ここ数年の新中学校 1 年生はしっかりと話し合いができる」という話がありました。「主体的・対話的で深い学び」の実現を意識して行ってきた各校の校内研究の成果が、学習の内容だけでなく小学校・中学校を見通した学習の形態にまで反映されていることを実感している様子でした。

前段でも示した結果ですが、授業で話し合うことを通して学習を深めていることが分かりますが、学習内容の定着とともに、学校でもコミュニケーション力ややり抜く力が育成されていることを確認できます。授業の中でただ話し合いを行っているというだけでなく、自ら学びに向かおうとしている姿勢についても、児童・生徒自身が他者との対話を通じて実感していることが分かります。

また、これらの学習活動を日々行うことができるのは、信頼関係によって作られた学習環境が学校だけでなく、その支えとして家庭・地域にあることが大きく影響しています。

先生は自分自身も文化というバトンを持ったランナーであると同時に、一緒に走っているランナーである児童・生徒を励まし、認め、導くコーチでもあります。この営みが本来目指すべき教育の在り方であり、本結果の概要の注釈にある学習指導要領の考え方と根は同じです。また、それを家庭・地域とともにやっていることも事実として存在します。

これまでに行ってきた実践に誇りを持ち、「書くこと」等の課題に正面から向き合い、子どもに、子どもを育てている全てのスタッフに恥じない本来の教育活動をするための大事さを、寒川町に住む児童・生徒や保護者の頑張りの結晶である本調査結果が示しています。

子どもの成長の橋渡しとともに、家庭・地域の橋渡しを、教育実践の研究を通して行うことが本来大事にしている教育活動を守っていくことにつながります。

寒川町教育委員会としましても、日常的な学校訪問を通して授業改善についての指導を行うとともに、よりよい授業を行うための ICT 機器等の学習環境整備を推進してまいります。

これまでの調査結果の分析のまとめとして、『確かな学力をつけるために「町全体で取り組んでいきませんか」』を次頁に編集しました。

平成30年度全国学力・学習状況調査結果分析より

確かな学力をつけるために 町全体で取り組んでいきませんか



◆ これまでの成果

- 「早寝・早起き・朝ご飯」など生活リズムを整える、宿題に取り組む、計画的に勉強の時間をとる 等学習に取り組む基盤を作っています。

◇ これからも取り組んでいきたいこと

- 「家庭学習の手引き」を参考に、それぞれの様子にあった学習への声かけを。→eライブラリの活用
- 「家庭教育ハンドブック」を参考に、それぞれの時期に合った温かな関わりを。

*「家庭学習の手引き」「家庭教育ハンドブック」は下のURLからダウンロードできます。

家庭で

学力はよりよく生きるために必要な力です。

これまでも家庭、学校、地域で子どもと良い関わりをしてきました。

これからも町全体で子どものよりよい成長を後押ししていきます。

学校で

◆ これまでの成果

- 各校での研究により授業改善の成果が出ている
小学校：話し合い活動の充実
→ 話す・聞く力の育成
中学校：今求められる学力を意識した授業の充実
→ 課題に取り組む力の育成

◇ これからも取り組んでいきたいこと

- 「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業実践と研究を推進していきます。
- 自分の考えを書くことを意識した指導を徹底していきます。
- 児童・生徒との信頼関係を構築して人的な学習環境を整備していきます。

地域で

□ 教育委員会として

- 各校の授業研究の推進のため指導主事が中心となって日常的な学校訪問を行い、授業の在り方などを学校とともに考えていきます。
- よりよい授業を行うためのICT機器等の学習環境の整備を推進していきます。
- 家庭学習を推進していくため、eライブラリの活用方法を「家庭学習の手引き」にまとめ、内容について周知を図っていきます。

子どものよりよい成長を願う思いは家庭でも、学校でも、地域でも同じです。どの子も安心して主体的に学習に取り組むことができる学びに向かう力を町全体で育てていきませんか。

◆ これまでの成果

- 「地域のせんせい」では協力者による授業支援や補助が充実しています。
- 見守り等の活動を通して、地域での児童・生徒の様子を共有しています。

◇ これからも取り組んでいきたいこと

- 学校や家庭で取り組んでいることについて共有していただき、今できていることの良さを伸ばすように後押しをお願いします。

☆内容の詳細については、平成30年度全国・学力学習状況調査 寒川町調査結果の分析をご覧ください。

① 調査結果・家庭学習の手引き <http://www.town.samukawa.kanagawa.jp/soshiki/kyoiku/gakkokyoiku/gakujishidou/info/shochugakko/zenkoku/>

② 家庭教育ハンドブック <http://www.town.samukawa.kanagawa.jp/soshiki/kyoiku/kyoikusomu/shakaikyoiku/info/kateikyoyouiku/>





資料

【調査の概要】

調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらにそのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象

町内小学校第6学年に在籍する児童

町内中学校第3学年に在籍する生徒

(3) 児童生徒に対する調査内容

①教科に関する調査

◇国語、算数・数学

- ・主として「知識」に関する問題
- ・主として「活用」に関する問題

◇理科

主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
- ・学校に対する調査
指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(4) 調査の方式

悉皆調査（参考：平成19～21年度悉皆、22・24年度抽出、25年度以降悉皆）

(5) 調査日・調査内容

平成30年4月17日（火）

【小学校】国語A算数A（各20分）・国語B（40分）・

算数B（40分）・理科（40分）・児童質問紙（20分程度）

【中学校】国語A（45分）・国語B（45分）・数学A（45分）・

数学B（45分）・理科（45分）・生徒質問紙（20分程度）

【調査結果】 小学校 国語

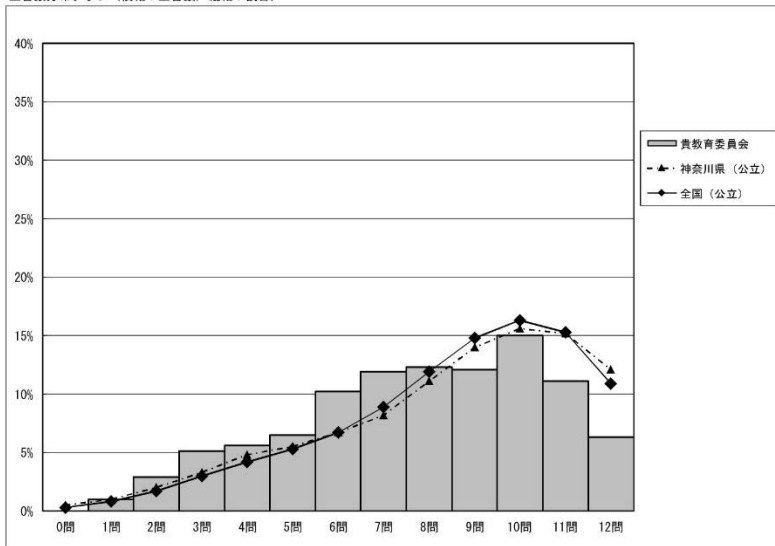
平成30年度全国学力・学習状況調査 小学校調査
調査結果概況 【国語A：主として知識】

寒川町教育委員会－児童

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
寒川町教育委員会	413	7.8 / 12	65	8.0	2.7
神奈川県（公立）	72,895	8.4 / 12	70	9.0	2.8
全国（公立）	1,030,025	8.5 / 12	70.7	9.0	2.7

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数集計値				
正答数	児童数	割合(%)	割合(%)	割合(%)
	貴教育委員会	貴教育委員会	神奈川県(公立)	全国(公立)
12問	26	6.3	12.1	10.9
11問	46	11.1	15.2	15.3
10問	62	15.0	15.6	16.3
9問	50	12.1	14.0	14.8
8問	51	12.3	11.1	11.9
7問	49	11.9	8.2	8.9
6問	42	10.2	6.7	6.7
5問	27	6.5	5.5	5.3
4問	23	5.6	4.8	4.2
3問	21	5.1	3.3	3.0
2問	12	2.9	2.0	1.7
1問	4	1.0	1.0	0.8
0問	0	0.0	0.5	0.3

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	神奈川県(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	10.0問	11.0問	11.0問
◇ 第2四分位	8.0問	9.0問	9.0問
▽ 第1四分位	6.0問	7.0問	7.0問

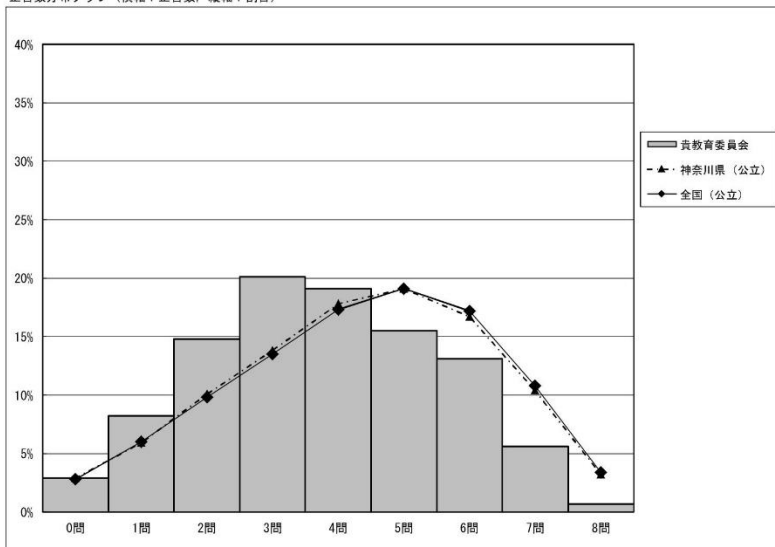
平成30年度全国学力・学習状況調査 小学校調査
調査結果概況 【国語B：主として活用】

寒川町教育委員会－児童

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
寒川町教育委員会	413	3.8 / 8	47	4.0	1.8
神奈川県（公立）	72,874	4.3 / 8	54	4.0	1.9
全国（公立）	1,029,799	4.4 / 8	54.7	5.0	1.9

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数集計値				
正答数	児童数	割合(%)	割合(%)	割合(%)
	貴教育委員会	貴教育委員会	神奈川県(公立)	全国(公立)
8問	3	0.7	3.2	3.4
7問	23	5.6	10.4	10.8
6問	54	13.1	16.7	17.2
5問	64	15.5	19.1	19.1
4問	79	19.1	17.8	17.3
3問	83	20.1	13.8	13.5
2問	61	14.8	10.1	9.8
1問	34	8.2	5.9	6.0
0問	12	2.9	2.9	2.8

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	神奈川県(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	5.0問	6.0問	6.0問
◇ 第2四分位	4.0問	4.0問	5.0問
▽ 第1四分位	2.0問	3.0問	3.0問

＊平成29年度より平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、寒川町は小数点以下を四捨五入した結果を示しています。（全国は小数第1位まで、都道府県及び市町村は小数点以下を四捨五入した結果の公表となっています。）

【調査結果】 小学校 算数

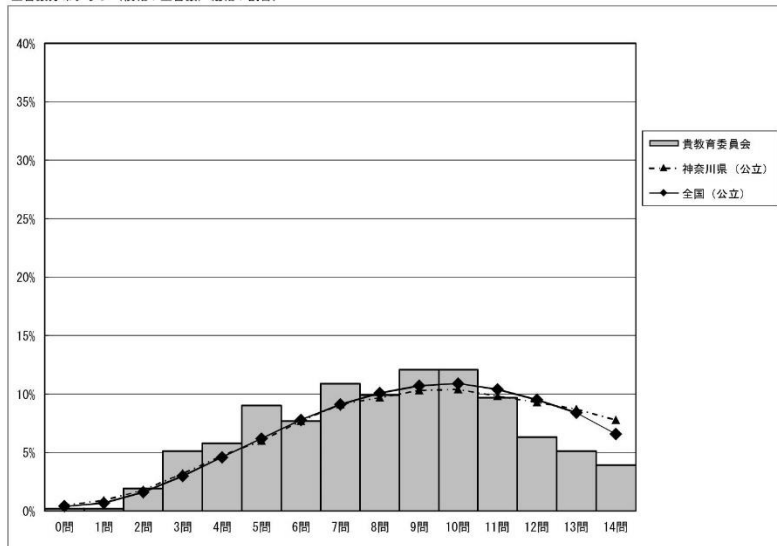
平成30年度全国学力・学習状況調査 小学校調査
調査結果概況 【算数A：主として知識】

寒川町教育委員会－児童

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
寒川町教育委員会	413	8.2 / 14	59	8.0	3.1
神奈川県（公立）	72,897	8.9 / 14	64	9.0	3.3
全国（公立）	1,030,013	8.9 / 14	63.5	9.0	3.2

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数	正答数集計値			
	児童数	割合(%)		
	貴教育委員会	貴教育委員会	神奈川県（公立）	全国（公立）
14問	16	3.9	7.8	6.6
13問	21	5.1	8.7	8.4
12問	26	6.3	9.3	9.5
11問	40	9.7	9.8	10.4
10問	50	12.1	10.4	10.9
9問	50	12.1	10.3	10.7
8問	41	9.9	9.7	10.1
7問	45	10.9	9.1	9.1
6問	32	7.7	7.7	7.8
5問	37	9.0	6.0	6.2
4問	24	5.8	4.7	4.6
3問	21	5.1	3.2	3.0
2問	8	1.9	1.8	1.6
1問	1	0.2	0.9	0.7
0問	1	0.2	0.5	0.4

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	神奈川県（公立）	全国（公立）
△ 第3四分位	10.0問	12.0問	11.0問
◇ 第2四分位	8.0問	9.0問	9.0問
▽ 第1四分位	6.0問	7.0問	7.0問

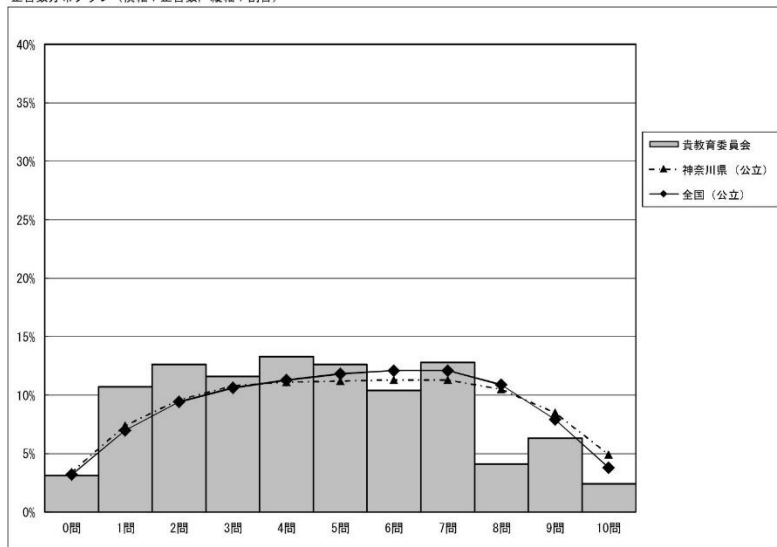
平成30年度全国学力・学習状況調査 小学校調査
調査結果概況 【算数B：主として活用】

寒川町教育委員会－児童

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
寒川町教育委員会	413	4.5 / 10	45	4.0	2.6
神奈川県（公立）	72,884	5.2 / 10	52	5.0	2.7
全国（公立）	1,029,847	5.1 / 10	51.5	5.0	2.7

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数	正答数集計値			
	児童数	割合(%)		
	貴教育委員会	貴教育委員会	神奈川県（公立）	全国（公立）
10問	10	2.4	4.9	3.8
9問	26	6.3	8.5	7.9
8問	17	4.1	10.5	10.9
7問	53	12.8	11.3	12.1
6問	43	10.4	11.3	12.1
5問	52	12.6	11.2	11.8
4問	55	13.3	11.1	11.3
3問	48	11.6	10.8	10.6
2問	52	12.6	9.6	9.4
1問	44	10.7	7.4	7.0
0問	13	3.1	3.4	3.2

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	神奈川県（公立）	全国（公立）
△ 第3四分位	7.0問	7.0問	7.0問
◇ 第2四分位	4.0問	5.0問	5.0問
▽ 第1四分位	2.0問	3.0問	3.0問

＊平成29年度より平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、寒川町は小数点以下を四捨五入した結果を示しています。（全国は小数第1位まで、都道府県及び市町村は小数点以下を四捨五入した結果の公表となっています。）

【調査結果】 小学校 理科

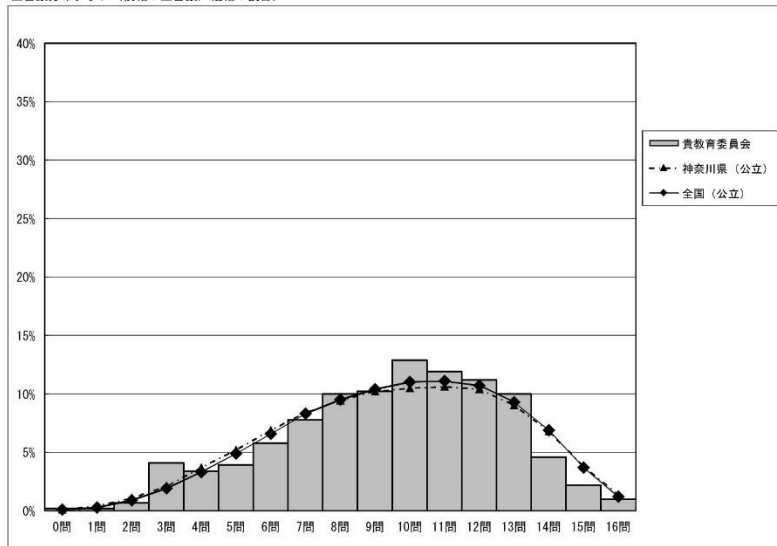
平成30年度全国学力・学習状況調査 小学校調査
調査結果概況 [理科]

寒川町教育委員会－児童

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
寒川町教育委員会	412	9.4 / 16	59	10.0	3.2
神奈川県（公立）	72,894	9.5 / 16	60	10.0	3.3
全国（公立）	1,029,828	9.6 / 16	60.3	10.0	3.2

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数集計値				
正答数	児童数	割合(%)	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
	貴教育 委員会	貴教育 委員会		
16問	4	1.0	1.4	1.2
15問	9	2.2	3.8	3.7
14問	19	4.6	6.8	6.9
13問	41	10.0	9.0	9.3
12問	46	11.2	10.4	10.7
11問	49	11.9	10.6	11.1
10問	53	12.9	10.5	11.0
9問	42	10.2	10.2	10.4
8問	41	10.0	9.4	9.5
7問	32	7.8	8.4	8.3
6問	24	5.8	6.9	6.6
5問	16	3.9	5.2	4.9
4問	14	3.4	3.7	3.3
3問	17	4.1	2.1	1.9
2問	3	0.7	1.1	0.9
1問	1	0.2	0.4	0.3
0問	1	0.2	0.1	0.1

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育 委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	12.0問	12.0問	12.0問
◇ 第2四分位	10.0問	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	7.0問	7.0問	7.0問

* 平成29年度より平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、寒川町は小数点以下を四捨五入した結果を示しています。（全国は小数第1位まで、都道府県及び市町村は小数点以下を四捨五入した結果の公表となっています。）

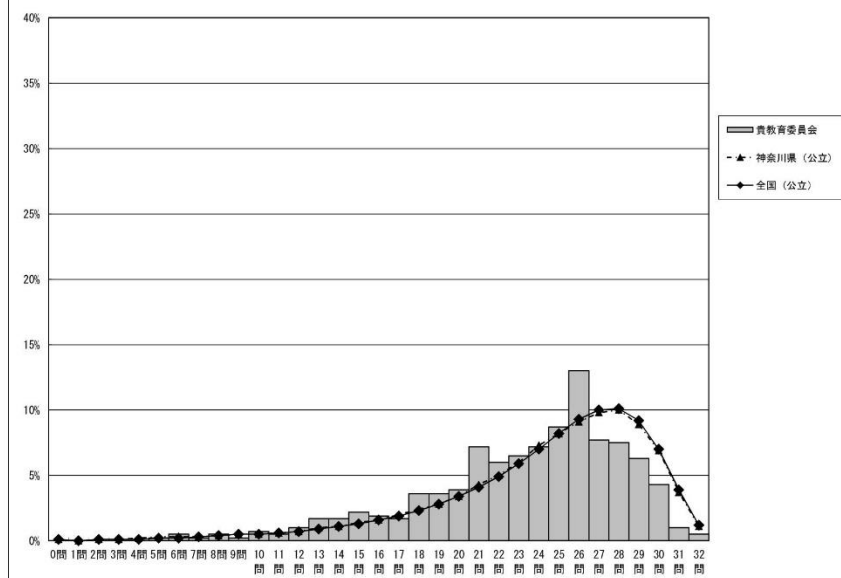
【調査結果】 中学校 国語

平成30年度全国学力・学習状況調査 中学校調査
調査結果概況 【国語A：主として知識】

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
寒川町教育委員会	415	23.2 / 32	73	24.0	5.1
神奈川県（公立）	64,452	24.2 / 32	76	25.0	5.3
全国（公立）	966,764	24.3 / 32	76.1	26.0	5.3

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



寒川町教育委員会—生徒

正答数集計値				
正答数	生徒数 貴教育 委員会	割合(%) 貴教育 委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
32問	2	0.5	1.1	1.2
31問	4	1.0	3.7	3.9
30問	18	4.3	6.9	7.0
29問	26	6.3	8.9	9.2
28問	31	7.5	10.0	10.1
27問	32	7.7	9.8	10.0
26問	54	13.0	9.1	9.3
25問	36	8.7	8.2	8.2
24問	30	7.2	7.3	7.0
23問	27	6.5	6.0	5.9
22問	25	6.0	5.0	4.9
21問	30	7.2	4.3	4.1
20問	16	3.9	3.4	3.4
19問	15	3.6	2.8	2.8
18問	15	3.6	2.4	2.3
17問	7	1.7	2.0	1.9
16問	8	1.9	1.6	1.6
15問	9	2.2	1.4	1.3
14問	7	1.7	1.1	1.1
13問	7	1.7	1.0	0.9
12問	4	1.0	0.7	0.7
11問	2	0.5	0.6	0.6
10問	3	0.7	0.5	0.5
9問	1	0.2	0.5	0.5
8問	2	0.5	0.4	0.4
7問	1	0.2	0.3	0.3
6問	2	0.5	0.3	0.2
5問	1	0.2	0.3	0.2
4問	0	0.0	0.2	0.1
3問	0	0.0	0.1	0.1
2問	0	0.0	0.1	0.1
1問	0	0.0	0.0	0.0
0問	0	0.0	0.1	0.1

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

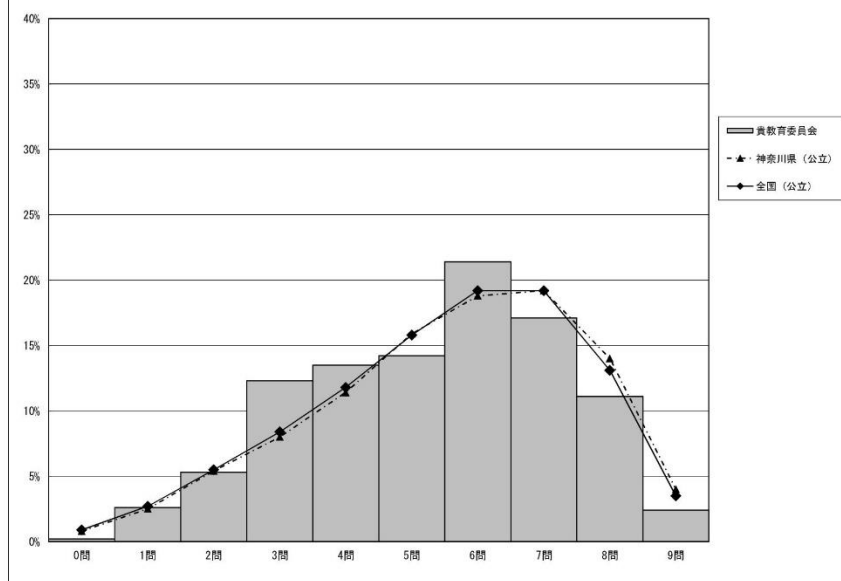
	貴教育 委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	27.0問	28.0問	28.0問
◇ 第2四分位	24.0問	25.0問	26.0問
▽ 第1四分位	21.0問	22.0問	22.0問

平成30年度全国学力・学習状況調査 中学校調査
調査結果概況 【国語B：主として活用】

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
寒川町教育委員会	416	5.3 / 9	59	6.0	1.9
神奈川県（公立）	64,480	5.6 / 9	62	6.0	2.0
全国（公立）	966,786	5.5 / 9	61.2	6.0	2.0

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



寒川町教育委員会—生徒

正答数集計値				
正答数	生徒数 貴教育 委員会	割合(%) 貴教育 委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
9問	10	2.4	4.0	3.5
8問	46	11.1	14.0	13.1
7問	71	17.1	19.2	19.2
6問	89	21.4	18.8	19.2
5問	59	14.2	15.9	15.8
4問	56	13.5	11.4	11.8
3問	51	12.3	8.0	8.4
2問	22	5.3	5.4	5.5
1問	11	2.6	2.5	2.7
0問	1	0.2	0.8	0.9

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育 委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	7.0問	7.0問	7.0問
◇ 第2四分位	6.0問	6.0問	6.0問
▽ 第1四分位	4.0問	4.0問	4.0問

＊平成29年度より平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、寒川町は小数点以下を四捨五入した結果を示しています。（全国は小数第1位まで、都道府県及び市町村は小数点以下を四捨五入した結果の公表となっています。）

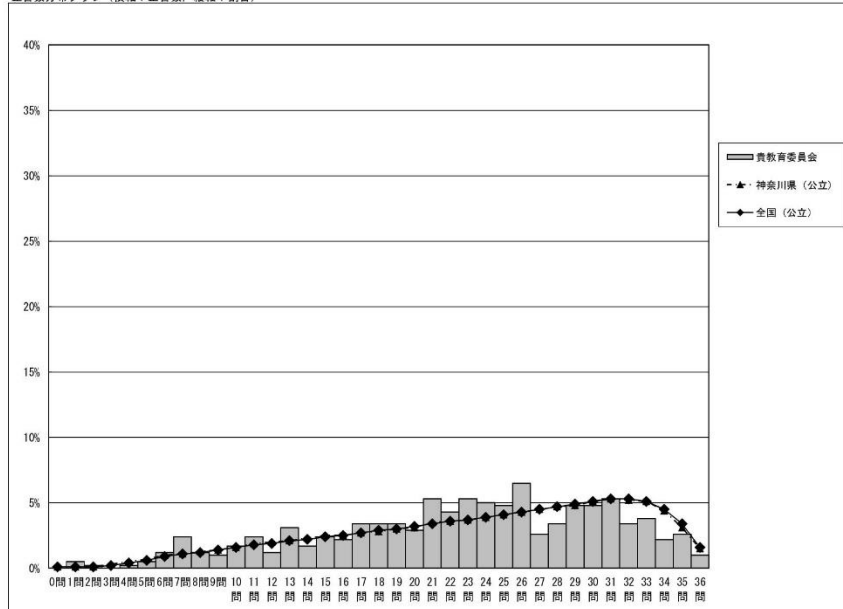
【調査結果】 中学校 数学

平成30年度全国学力・学習状況調査 中学校調査
調査結果概況 【数学A：主として知識】

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
寒川町教育委員会	416	22.7 / 36	63	24.0	7.9
神奈川県（公立）	64,500	23.6 / 36	66	25.0	8.2
全国（公立）	966,969	23.8 / 36	66.1	25.0	8.1

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



寒川町教育委員会一生徒

正答数	正答数集計値			
	生徒数	割合(%)	割合(%)	割合(%)
	貴教育委員会	貴教育委員会	神奈川県（公立）	全国（公立）
36問	4	1.0	1.5	1.6
35問	11	2.6	3.1	3.4
34問	9	2.2	4.4	4.5
33問	16	3.8	5.1	5.1
32問	14	3.4	5.2	5.3
31問	22	5.3	5.3	5.3
30問	20	4.8	5.1	5.1
29問	20	4.8	4.8	4.9
28問	14	3.4	4.7	4.7
27問	11	2.6	4.5	4.5
26問	27	6.5	4.3	4.3
25問	20	4.8	4.1	4.1
24問	21	5.0	3.9	3.9
23問	22	5.3	3.7	3.7
22問	18	4.3	3.6	3.6
21問	22	5.3	3.5	3.4
20問	12	2.9	3.1	3.2
19問	14	3.4	3.0	3.0
18問	14	3.4	2.8	2.9
17問	14	3.4	2.7	2.7
16問	9	2.2	2.5	2.5
15問	10	2.4	2.5	2.4
14問	7	1.7	2.3	2.2
13問	13	3.1	2.1	2.1
12問	5	1.2	2.0	1.9
11問	10	2.4	1.9	1.8
10問	7	1.7	1.6	1.6
9問	4	1.0	1.4	1.4
8問	5	1.2	1.3	1.2
7問	10	2.4	1.1	1.1
6問	5	1.2	1.0	0.9
5問	2	0.5	0.7	0.6
4問	1	0.2	0.5	0.4
3問	0	0.0	0.3	0.2
2問	1	0.2	0.1	0.1
1問	2	0.5	0.1	0.1
0問	0	0.0	0.1	0.1

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

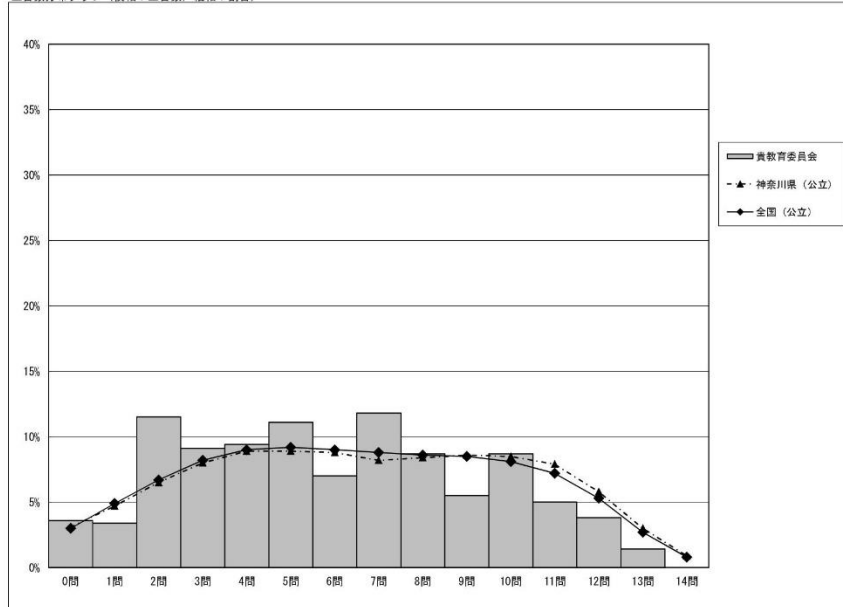
	貴教育委員会	神奈川県（公立）	全国（公立）
△ 第3四分位	29.0問	30.0問	31.0問
◇ 第2四分位	24.0問	25.0問	25.0問
▽ 第1四分位	17.0問	18.0問	18.0問

平成30年度全国学力・学習状況調査 中学校調査
調査結果概況 【数学B：主として活用】

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
寒川町教育委員会	416	6.0 / 14	43	6.0	3.3
神奈川県（公立）	64,468	6.7 / 14	48	7.0	3.6
全国（公立）	966,908	6.6 / 14	46.9	7.0	3.5

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



寒川町教育委員会一生徒

正答数	正答数集計値			
	生徒数	割合(%)	割合(%)	割合(%)
	貴教育委員会	貴教育委員会	神奈川県（公立）	全国（公立）
14問	0	0.0	0.9	0.8
13問	6	1.4	3.0	2.7
12問	16	3.8	5.8	5.3
11問	21	5.0	7.9	7.2
10問	36	8.7	8.5	8.1
9問	23	5.5	8.6	8.5
8問	36	8.7	8.4	8.6
7問	49	11.8	8.2	8.8
6問	29	7.0	8.8	9.0
5問	46	11.1	8.9	9.2
4問	39	9.4	8.9	9.0
3問	38	9.1	8.0	8.2
2問	48	11.5	6.5	6.7
1問	14	3.4	4.7	4.9
0問	15	3.6	3.1	3.0

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	神奈川県（公立）	全国（公立）
△ 第3四分位	8.0問	10.0問	9.0問
◇ 第2四分位	6.0問	7.0問	7.0問
▽ 第1四分位	3.0問	4.0問	4.0問

＊平成29年度より平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、寒川町は小数点以下を四捨五入した結果を示しています。（全国は小数第1位まで、都道府県及び市町村は小数点以下を四捨五入した結果の公表となっています。）

【調査結果】 中学校 理科

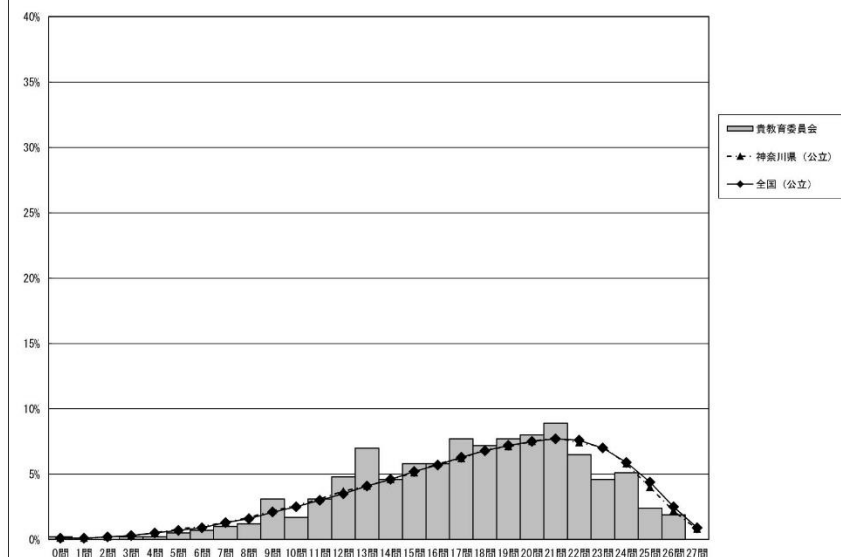
平成30年度全国学力・学習状況調査 中学校調査
調査結果概況 【理科】

寒川町教育委員会一生徒

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
寒川町教育委員会	415	17.3 / 27	64	18.0	4.8
神奈川県（公立）	64,460	17.7 / 27	66	18.0	5.2
全国（公立）	967,188	17.9 / 27	66.1	19.0	5.2

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数	正答数集計値			
	生徒数 貴教育 委員会	割合(%) 貴教育 委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
27問	0	0.0	0.8	0.9
26問	8	1.9	2.2	2.5
25問	10	2.4	4.0	4.4
24問	21	5.1	5.8	5.9
23問	19	4.6	7.1	7.0
22問	27	6.5	7.4	7.6
21問	37	8.9	7.8	7.7
20問	33	8.0	7.5	7.5
19問	32	7.7	7.1	7.2
18問	39	7.2	6.9	6.8
17問	32	7.7	6.2	6.3
16問	24	5.8	5.8	5.7
15問	24	5.8	5.1	5.2
14問	19	4.6	4.6	4.6
13問	29	7.0	4.1	4.1
12問	20	4.8	3.7	3.5
11問	13	3.1	3.1	3.0
10問	7	1.7	2.6	2.5
9問	13	3.1	2.2	2.1
8問	5	1.2	1.7	1.6
7問	4	1.0	1.3	1.3
6問	3	0.7	1.0	0.9
5問	2	0.5	0.8	0.7
4問	1	0.2	0.5	0.5
3問	1	0.2	0.3	0.3
2問	0	0.0	0.2	0.2
1問	0	0.0	0.1	0.1
0問	1	0.2	0.1	0.1

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育 委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	21.0問	22.0問	22.0問
◇ 第2四分位	18.0問	18.0問	19.0問
▽ 第1四分位	14.0問	14.0問	14.0問

* 平成29年度より平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、寒川町は小数点以下を四捨五入した結果を示しています。（全国は小数第1位まで、都道府県及び市町村は小数点以下を四捨五入した結果の公表となっています。）

